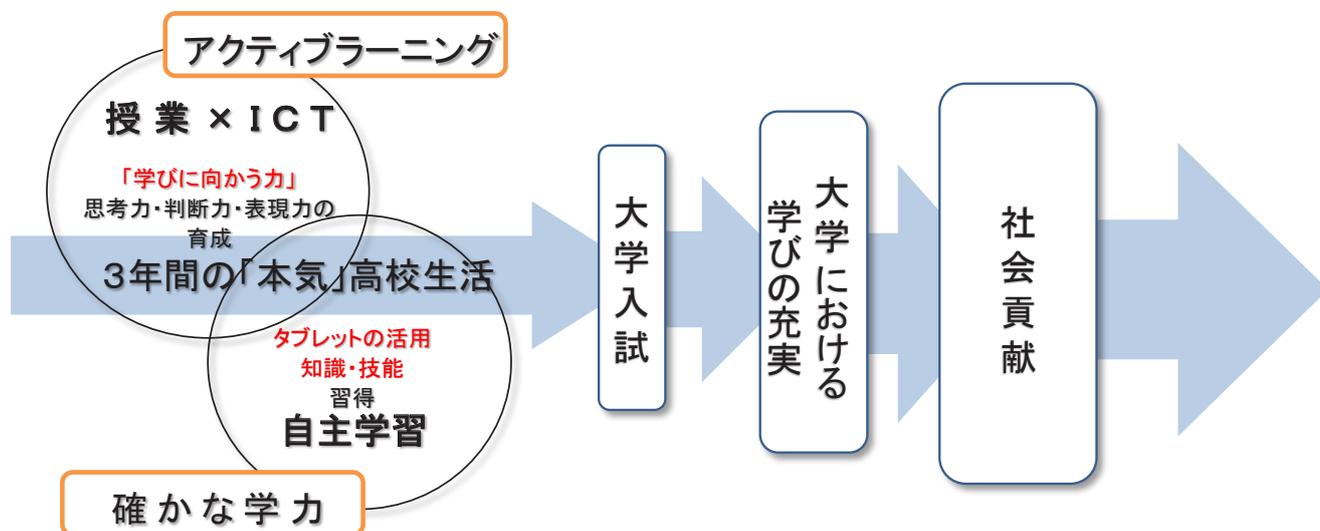


令和2年度科目履修案内 第2学年 目次

		コース・科				頁	
大宮北高校「本気の学習」						1	
2年生の学習の指針						2	
平成31年度入学生教育課程表（普通科・理数科）						4	
科目選択・コース選択をする際に						6	
＜各教科より＞							
1	国語科	現代文B	A	B	SSC	理数	11
		古典B	A	B	SSC	理数	12
2	地歴科	日本史B	A				15
		世界史B	A				18
		世界史A		B	SSC	理数	19
3	数学科	数学Ⅱ	A				21
		数学B	A				22
		数学Ⅱ・B		B	SSC		23
		理数数学Ⅱ				理数	24
4	理科	生物基礎	A				26
				B	SSC		27
		地学基礎	A	B			29
		化学		B	SSC		31
		SS化学				理数	32
		SS物理				理数	33
		SS生物				理数	35
5	保健体育	体育	A	B	SSC	理数	38
		保健	A	B	SSC	理数	40
6	芸術	音楽Ⅱ	A	B			42
		美術Ⅱ	A	B			44
		書道Ⅱ	A	B			46
7	英語科	コミュニケーション英語Ⅱ	A	B	SSC	理数	49
		英語表現Ⅱ	A	B	SSC	理数	50
		英語理解	A				51
8	数理探究	数理探究Ⅱ			SSC	理数	52

大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。
どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？
多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。
「本気の学習」を大切にし、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。
大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。
大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。
自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。
授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。
希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。
ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成
「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。
社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向けた努力が必要です。
通学時間や部活動等によって時間の使い方は変わります。
個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。
3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、
個々の日々の学習計画を構築していきましょう。
苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。
計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。
理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長
海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

2年次の学習の指針

基本的な姿勢

2年生は、高校生の中核になる学年です。部活動においても、学校行事においても北高の中核として全体の事を考えて行動しなければなりません。しかし、ともすると、生活面、学習面において中だるみにおちいり進路意識が希薄になり易いのです。逆にこの時期をうまく自分をコントロールし乗り越えることができれば、自分の目指す進路実現に近づきます。

進路実現への方策には
希望を叶える為の十分な学力の裏づけと学費が必要です。

その対策として

- ① 将来の職業についてしっかりした意識を持つ
- ② 充実した高校生活を過ごす → 日々の自分を振り返る
- ③ 保護者と自分の進む道に関して十分に話し合う。資金面も学力があれば特待生制度(入学試験や日常の成績が優秀な生徒に対して、学費の一部や全額を免除する制度)の利用も可能になり資金面において有利になる
- ④ 定期考査毎に目標を定めて頑張る。
- ⑤ 得意科目をつくる → 英語なら更により → 英検2級以上の取得
TOEIC などへの挑戦
- ⑥ 平日の学習習慣の確立 → 1日あたり3時間の学習。

学習の目標

- ① 受験科目の教科書の問題がすべて解けるようにする。
- ② 英単語・英熟語を完璧にする。
- ③ 今年度の共通テストを実際に解き五割程度の正答率をとることを目指す。
- ④ 模擬試験で、1年の1月の偏差値から2年の1月の偏差値で5~10アップさせる。又は、国公立大学でA又はB判定の獲得を目指す。
- ⑤ 得意科目をつくる。
- ⑥ 1年と同様 予習 → 授業 → 復習 の黄金の三角形を維持する。

方 策 ……個々人の努力目標

- ① 定期考査ごとに PLAN (計画)・ DO (実行)・SEE (反省・改善)を繰り返し
学力の向上を目指す
- ② 模擬試験を積極的に受け、全国における自分の位置を把握し、志望校への
学力との差を確認する。→ STEP UP への道
- ③ 具体的な目標をもつ
例えば、クラスで 10 位以内 数学はクラスで 5 番以内など身近なものでよい
- ④ 学習に対するクラスでの雰囲気作り。良い意味での競争意識の醸成
→ 学年全体での雰囲気作り → 学校全体での雰囲気作り
→ 自信ができ、更なる飛躍が期待できる。→全体での学力 UP
- ⑤ 英単語を寝る 20 分前、又は通学時等を利用して暗記する。
- ⑥ 新聞を読む。……情報の収集 社会に関心をもつ。
- ⑦ 祝日の学習時間の確保……普段できない部分のカバー
- ⑧ 自習時間など隙間時間の積極的な利用。

学習計画

第 1 学期……定期考査を頑張る

模擬試験の結果を吟味する。→1 年 1 月との比較

第 2 学期……定期考査を頑張る

模擬試験の結果を吟味する。→2 年 7 月との比較

修学旅行終了時から 1 年間の受験計画を立てる

→ 3 学期で丁度 1 年前 受験勉強の標準的な開始時期

早いスタートが第一志望合格のポイントである。

第 3 学期……定期考査を頑張る

模擬試験の結果を吟味する。→2 年 11 月との比較

→自分の学力を客観的に把握し対策を練る。

1 学期	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
	1 学期中間考査		1 学期期末考査		
2 学期	9 月	10 月	11 月	12 月	
	2 学期中間考査		2 学期期末考査		
3 学期	1 月	2 月	3 月		
	入試 1 年前受験勉強開始				

令和2年度 教育課程表(普通科) (平成31年度入学生用)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年			3 年			計	
教科	科目			A	B	SSC	A1	A2	B		
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	国語総合	4	5						13~19	
		現代文B	4		2	2	2	3	3		
		古典B	4		3	3	3	3	3		
		(学)国語探究	4						3		
	地 理 歴 史	世界史A	2			2	2			6~15	
		世界史B	4		3			●5	●5		
		日本史B	4		3			●5	●5 ●4		
		地理B	4						○4 ●4		
		(学)世界史特講						△2			
	公 民	現代社会	2	2						2~6	
		倫理	2					△2	○2		
		政治・経済	2					2	○2		
	数 学	数学Ⅰ	3	3						9~19	
		数学Ⅱ	4		4	5	5		○3		
		数学Ⅲ	5						○7		
		数学A	2	2							
		数学B	2		●2	2	2				
		数学探究1301 (学)数学特講	2~4						5		○4
	理 科	物理基礎	2	2						7~20	
		物理	4						▲7		
		化学基礎	2	2							
		化学	4			4	4				3
		生物基礎	2		3	2	2				
		生物	4								▲7
		地学基礎	2		☆2						
	(学)化学探究 (学)地学探究							△3 △3			
	保 健 体 育	体育	7~8	3	3	3	3	2	2	10	
		保健	2	1	1	1	1				
	芸 術	音楽Ⅰ	2	☆2						2~6	
		音楽Ⅱ	2		☆2	☆2					
		音楽Ⅲ	2					☆2			
		美術Ⅰ	2	☆2							
		美術Ⅱ	2		☆2	☆2					
		書道Ⅰ 書道Ⅱ	2 2	☆2 ☆2							
外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4						18~24		
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	4	4					
	コミュニケーション英語Ⅲ	4					4	4			
	英語表現Ⅰ	2	2								
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	3	3		2	
	(学)英語特講 (学)英語探究						△2 3				
	家庭基礎	2	2							2	
主として 設置される 専門学科に おける 各教科・科目 等	家庭 英語 美術 書道 体育	フードデザイン	2~6				☆2		0~4		
	英語理解	4		●2							
	クラフトデザイン	2~10					☆2				
	実用の書2707	2~4					☆2				
学校設定科目等	スポーツⅡ	2				☆2					
	数理探究	2~4			2				2~4		
	小計		32	32	32	32	32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	1	3	
	総合的な探究の時間	授業時数 (単位数)	1 (1)	授業時数：105 単位数：(3)							
	合計 (適当たりの授業時数)		34	34	34	34	34	34	34	102	
備 考		1年 ☆印から1科目選択 「数理探究」は「情報の科学」の代替 2年 ☆、●印からそれぞれ1科目選択 3年 (A1) ☆、●、△印からそれぞれ1科目選択。 (A2) ●、△印からそれぞれ1科目選択、○印から1または2科目選択。 ○印の選択は(ア)地理Bを選択。 (イ)政治・経済、倫理を選択。 (B) ●、▲印からそれぞれ1科目選択、○印から1または3科目選択。 ○印の選択は(ア)数学Ⅲを選択。 (イ)数学Ⅱ、数学探究を選択。							・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位		

令和2年度 教育課程表(理数科) (平成31年度入学生用)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教科	科目						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	国語総合	4	5		12	
		現代文B	4		2		
		古典B	4		3		
		(学)国語探究					2
	地 理 歴 史	世界史A	2		2		6
		日本史B	4			◆4	
		地理A	2				
		地理B	4			◆4	
	公 民	現代社会	2	2			2
		倫理	2				
		政治・経済	2				
	保 健 体 育	体育	7~8	2	3	2	9
		保健	2	1	1		
	芸 術	音楽I	2	☆2			2
		音楽II	2				
		音楽III	2				
		美術I	2	☆2			
		美術II	2				
		美術III	2				
		書道I	2	☆2			
		書道II	2				
	外 国 語	コミュニケーション英語I	3	3			17
		コミュニケーション英語II	4		4		
コミュニケーション英語III		4			4		
英語表現I		2	2				
英語表現II		4		2	2		
家 庭	家庭基礎	2	2			2	
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	S 理 数	SS理数数学I	5~7	5		41	
		SS理数数学II	7~9		7		3
		SS理数数学特論	4~6				4
		SS理数生物	6~8	2	2		■5
		SS理数化学	6~8	2	2		5
		SS理数物理	6~8	2	2		■5
	小計			30	30	31	91
特 別 活 動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な探究の時間		授業時数	1	1	1	授業時数：105	
		(単位数)	(1)	(1)	(1)	単位数：(3)	
学 校 設 定 科 目 等	数理探究	5	2	2	1	5	
合 計 (週当たりの授業時数)			34	34	34	102	
備 考			1年 ☆印からそれぞれ1科目選択 3年◆、■印からそれぞれ1科目選択。 「数理探究」 ・1年次「情報の科学」(2単位)の代替			・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位	

＝科目選択・コース選択をする際に＝

2021年度第3学年の科目選択・コース選択

普通科3年生では、A1コース（私立文系）、A2コース（国立文系）、Bコース（理系）の3コースに分かれます。また、理数科3年生では、コースはありませんが、選択科目を二つ選ばなくてはなりません。次の各科目の説明をよく読んで、コース・科目選択に間違いがないようにしましょう。

<普通科A1（私立文系）コース>

日本史B	室町幕府の衰退と庶民の台頭から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半にはセンター入試等に備えて問題演習を行います。
世界史B	主に古代から中世までの世界史を学びます。2年次の必修で扱わなかった範囲を学習するので、受験で世界史を必要とする人は必ず選択して下さい。
倫理	時代、地域ごとに過去の優れた思想家の基本的な考え方を学習します。社会全体の解釈や青年期なども学習分野です。幅広く先人の智に触れ、自身の価値観や信条を鍛えてほしいと思います。内容レベルは現在のセンター試験を想定しています。
世界史特講	演習問題への取り組みを中心とします。これまで学んだ知識を生かし、実際の入試問題を解くためには、それなりの手法と訓練が必要です。それを身につけるための講座です。
日本史特講	テーマ史、資料問題、論述問題など実践的な問題演習を行います。
数学特講	数学Ⅰ+Aを中心に大学入試センター試験や私立文系の数学受験に対応する演習を行います。
英語特講	入試問題に頻出のテーマに沿った英文を読みながら、語彙や構文についても習得します。
音楽Ⅲ	音楽Ⅰ・Ⅱを履修している者のみ選択できます。内容は、履修者に応じて決定します。表現および鑑賞はⅠ・Ⅱを応用して行います。さらに、各自が課題設定し発表する創造的なスタイルが加わります。
クラフトデザイン	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。 生活全般にわたり、形や色などを活用し、生活の中で生きるデザインを行います。
実用の書	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。 実用の書では、日常生活に係わる古くからの日本の習慣（冠婚葬祭を含む）に必要な書式等を学びます。又、表札（10×20）の制作、写経、硬筆を楽しく学びます。
スポーツⅡ	(1) ゴール型球技の理解と実践、(2) ネット型球技の理解と実践、(3) ベースボール型球技の理解と実践 *種目の種類については、人数・男女の割合・施設等を考慮し1学期始めに決定します。

フードデザイン	栄養・食品・献立・調理などの知識と技術を習得し、食生活を総合的に考えられる力をつけます。調理実習・実技テストは、安全・衛生のため身だしなみを重視します。実習費の徴収があります。進路が栄養・調理の人限定ですが、進路が福祉・保育の人で希望する人は相談に来てください。
---------	---

*選択科目ではありませんが

英語探究	1・2年で学んだことをさらに深めて、英文法・英作文の問題演習を行います。
国語探究	現代文と古典の1・2年で学んだことを総復習し、主に大学入試センター試験に対応できる知識と解法を学び、演習を通じて、実践力を高めます。

<普通科A2 (国立文系) コース>

日本史B	室町幕府の衰退と庶民の台頭から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半にはセンター入試等に備えて問題演習を行います。
世界史B	主に古代から中世までの世界史を学びます。2年次の必修で扱わなかった範囲を学習するので、受験で世界史を必要とする人は必ず選択して下さい。
政治・経済 ＋ 倫理	政治・経済は、現在の社会を理解し判断するために必要な基本知識を学びます。源流となる思想から現在のトピックまで、可能な範囲で学習します。2年の現代社会で扱うことができなかった範囲を中心に扱います。現代社会で受験する人も選択してください。 倫理は、時代、地域ごとに過去の優れた思想家の基本的な考え方を学習します。社会全体の解釈や青年期なども学習分野です。幅広く先人の智に触れ、自身の価値観や信条を鍛えてほしいと思います。内容レベルは現在のセンター試験を想定しています。
地理B	1学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、センター試験に向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
化学探究	「化学基礎」のセンター試験対策演習および考査を行います。「化学基礎」でセンター試験を受験する者は必ず受講してください。受講者にのみ補習を開講します。
地学探究	2年で学んだ地学基礎の内容で、まだ終了していない部分の授業をします。その後、センター試験で地学基礎で受験できるように、問題演習を行います。

*選択科目ではありませんが

数学探究	1年・2年で学んだことを総復習し、主に大学入試センター試験及び医療看護系大学の入試の数学Ⅰ＋A、Ⅱ＋Bに対応できる必要な知識と解法を学び演習力を高めます。2年時に数学Bを選択していなかった生徒は自分で学習しておいてください。
------	--

< 普通科 B (理系) コース >

日本史 B	原始・古代から近世までについて簡単に触れつつ、幕藩体制の動揺・崩壊から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半にはセンター入試等に備えて問題演習を行います。
地理 B	1 学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2 学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、センター試験に向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
数学Ⅲ	理工系・医学系に進学したい人は、必修です。
数Ⅱ・ 数学探究	1 年・2 年で学んだことを総復習し、大学入試センター試験や数学Ⅰ・A、Ⅱ・B の記述試験にも対応できる必要な知識と解法を学び演習力を高めます。
物理	2 年次に学習した「物理基礎」に含まれない力学や熱力学、音波・光波、電磁気学さらには原子物理までを学びます。 理工系への進学を考えている人は学習しておく必要があります。
生物	2 年生で学習した「生物基礎」の残っている生態分野と「生物」を合わせて学習します。理系として必要とされる「生物」の知識を学びます。また、大学入試に対応した「生物基礎」「生物」の両方の分野の演習を、7 単位のなかで実施します。

*選択科目ではありませんが

国語探究	現代文と古典の 1・2 年で学んだことを総復習し、主に大学入試センター試験に対応できる知識と解法を学び、演習を通じて、実践力を高めます。
------	--

< 理数科 >

日本史 B	原始・古代から近世までについて簡単に触れつつ、幕藩体制の動揺・崩壊から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半にはセンター入試等に備えて問題演習を行います。
地理 B	1 学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2 学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、センター試験に向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
SS 物理	力学後半 (円運動・単振動・万有引力等)、電磁気学、熱力学、原子物理学を学びます。また、2 学期は大学入試に向けた問題演習を行っていきます。
SS 生物	「生物」の学習していない分野を学びます。後半は、入試に対応した「生物基礎」「生物」の両方の分野の演習を実施します。

注意!

- コース変更で縛りのある科目
2 年生 B コース (理系)・SSC から 3 年生 A コースに変更する場合、3 年生では地歴科目の「地理 B」または「日本史 B」を必ず選択しなくてはなりません。(4 単位の必修科目だからです。)
- 音楽Ⅲは、1・2 年生で音楽Ⅰ・Ⅱを履修している人だけが選択できます。

1 国語科（2年生向け）

◆「1年時で覚え、2年時で思考すれば、3年次で伸びる！」

1年時では「国語総合」の授業を受けてきたわけですが、2年時では「現代文」「古典」の二つの科目に分けて学習することになります。どちらの科目も、1年生で学習してきたことの基礎に立って、もう少し発展的な学習を進めていきます。“基礎力がついて、少しずつ自分でできるようになると面白くなる”という原理は国語でも言えるはず。読解や記述の仕方、古文・漢文の文法・句法等、昨年度十分に身につけられなかったところを総点検しながら、基礎力の上に応用力がつけられるように頑張ってみましょう。

◆2年次の学習内容と学習の仕方

2年次では、毎週末に問題集を提出する「週末課題」を現代文、古典、両方の分野で行っていきたいと考えています。基礎力の総点検と応用力育成が目的です。

- ・教科書教材…授業中心。予習を前提に展開していく。
- ・漢字学習 …ほぼ毎時間、小テストを行う。範囲は1年時の続きから。
- ・古文単語 …ほぼ毎時間、小テストを行う。範囲は1年時の続きから。
- ・漢文句法 …『漢文必携』に載っている句法や重要語の完全マスターを目指す。
- ・週末課題 …期日を守って提出。自己採点をする事で復習する。

<現代文の予習>

- ・辞書で不明な語句を調べ、『現代文単語げんたん』に掲載している語については目を通しておく。
- ・教科書单元末の「学習」の問題を自分でやってみる。
- ・段落分けや要約をしてみる。
- ・漢字や現代文重要語などは、問題集や用語集（『パーフェクトクリア』『げんたん』）を使ってマスターできるようにする。

留意すること

- ① 記述力をつけるために、自分で考え、自分の言葉で書くようにすること。
- ② 『国語便覧』は折りあるごとに開き、国語の常識を身につけよう。

<古文の予習>

- ・音読を繰り返し行って、古文のリズムを体の中にしみこませること。
- ・辞書を引いて、語の意味だけではなく、文法的な働きや語の成り立ち、類義語や対義語など、幅広く目を通すようにすること。
- ・文法は機会あるごとに『古典文法二訂版』（文法書）を確認すること。

<古文の復習>

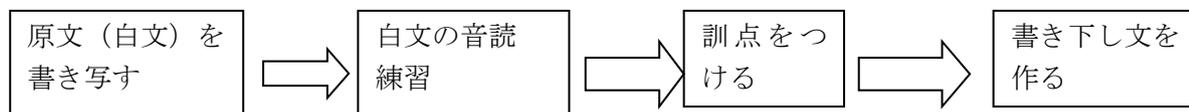
- ・音読しながら、授業内容の復習をする。
- 特に文法事項は繰り返し確認し、文法書の練習問題に取り組み、確実に身につけること。

<漢文の予習>

- ・音読を繰り返し行って、漢文のリズムを体の中にしみこませること。
- ・辞書を引いて、意味の見当がつかない熟語については、一字ずつの漢字の意味を確認しておく。
- ・句法を確認して、ノートやプリントに記入しておく。

<漢文の復習>

- ・音読しながら、授業内容の復習をする。
- 特に、学習済みの漢文はノートに書き出し、白文で読めるように何度も音読すること。その後、ノートに書き写した原文に訓点をつけてみたり、書き下し文にしたりして、漢文独特の言い回しに慣れるにしよう。



◆ 課題テスト・漢字テスト【2年までの予定】

* 課題テスト

	春休み明け	夏休み明け	冬休み明け
1年	/	『漢文必携』基礎編	百人一首 [1～50番]
		『古典文法』第一章(動・形・形動詞)	『古典文法』第二章(助動詞)
2年	百人一首 [51～100番]	文学史 [上代・中古]	文学史 [中世・近世]
	『古典文法』第三・四章	『古典文法』第五章(識別)	『古典文法』第六章(敬語)

◎ 「百人一首」「文学史」については『常用国語便覧』を使用する。

* 漢字テスト

学年	期間	1学期	2学期	3学期
1年	中間考査まで	5級：第1回～第4回	4級：第9回～第14回	3級：第23回～第29回
	期末考査まで	5級：第5回～第8回	4級：第15回～第22回	
2年	中間考査まで	3級：第30回～第35回	準2級：第42回～第47回	2級：第54回～第59回
	期末考査まで	準2級：第36回～第41回	準2級：第48回～第50回 2級：第51回～第53回	

◎ 『新常用漢字必携パーフェクトクリア』を使用する。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
現代文B		2	精選現代文B 新訂版 [大修館書店]	『イラストとネットワークで覚える現代文単語 げんたん』、『新国語問題集 読解サポート2』(いいずな書店) 『パーフェクトクリア』(尚文出版)
【到達目標】		近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育成する。		
【学習上の留意点】		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文章を読むことにより、語彙を増やすことができたか。 ・意味調べなどの予習に積極的に取り組み、主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ・漢字テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。 		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	評論(一)「ミロのヴィーナス」	『げんたん』『漢字』 『読解』『漢文』	<ul style="list-style-type: none"> ・対比・逆説・比喩などの表現技法を理解し、筆者の美についての発想をとらえる。 ・具体例・抽象表現等の表現上の工夫をとらえる。 ・日常の物事について分析する思考法を培う。 <input type="checkbox"/> コンスタントに学習し、合格ラインに達したか。 <input type="checkbox"/> 期日に提出 → 自己採点 → 復習できたか。
		評論(二)「豊かさとのつながり」		
6月 ～ 7月	1学期 期末	小説(一)「山月記」	『げんたん』『漢字』 『読解』『漢文』	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文調の文体や寓意的な表現に注意しながら内容をとらえ、描かれた人物、情景、心情などを読み味わう。特に、自分と「自己」との関係について考える。 <input type="checkbox"/> コンスタントに学習し、合格ラインに達したか。 <input type="checkbox"/> 期日に提出 → 自己採点 → 復習できたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	詩「永訣の朝」	『げんたん』『漢字』 『読解』『漢文』	<ul style="list-style-type: none"> ・詩歌を音読することで、その独特のリズムを味わう。 ・詩歌における技法、表現の特色などを理解する。 ・作者の思想、感情を理解する。 ・考察から導かれる筆者の主張を正確に把握し、人間のもっとも基本的な営みである食について考えるとともに、現代社会の問題点を正確にとらえることの大切さを学ぶ。 <input type="checkbox"/> コンスタントに学習し、合格ラインに達したか。 <input type="checkbox"/> 期日に提出 → 自己採点 → 復習できたか。
		評論(三)「食べ物を『はかる』」		
11月 ～ 12月	2学期 期末	小説(一)「こころ」	『げんたん』『漢字』 『読解』『漢文』	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。特に、小説の鑑賞力を培い、おもしろさを味わう。 <input type="checkbox"/> コンスタントに学習し、合格ラインに達したか。 <input type="checkbox"/> 期日に提出 → 自己採点 → 復習できたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末	評論(四) 「生命情報・社会情報・機械情報」	『げんたん』『漢字』 『読解』『漢文』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の問題意識を正確に把握し、現代の情報化社会に対する自覚的な態度を養う。 ・文章中のキーワードの意味を正しく把握し、文章に対する自分の考えをもつ。 ・論理の展開や要旨を叙述に即して的確にとらえる。 ・「敬語」と「他者への自覚」との関係論理として読み取り筆者の主張について、自分の意見をもつ。 <input type="checkbox"/> コンスタントに学習し、合格ラインに達したか。 <input type="checkbox"/> 期日に提出 → 自己採点 → 復習できたか。
		評論(五) 「敬語への自覚、他者への自覚」		

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
古典B		3	新 探求古典B 古文編 新 探求古典B 漢文編 [桐原書店]	『常用国語便覧』(浜島書店) 『漢文必携』、『漢文必携チェックノート』(桐原書店) 『古文単語315』(桐原書店) 『新国語問題集 読解サポート2』(いっずな書店) 『新修古典文法』(京都書房)
【到達目標】		古典としての古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
【学習上の留意点】		<ul style="list-style-type: none"> 意味調べなどの予習に積極的に取り組み、主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 単語テスト・文法小テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。 週末課題に取り組み、基礎力・応用力を育成することができたか。 		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	『伊勢物語』 初冠 『徒然草』 あだし野の露消ゆるときなく 『方丈記』 ゆく川の流れ		<input type="checkbox"/> 文法事項を踏まえながら、正確に口語訳できたか。 <input type="checkbox"/> 表現上の特色を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 登場人物の行動と心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 二つの随筆を読んで、無常観を比較し内容を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 中世の随筆文学の文学史的位置づけを理解できたか。
		「故事・寓話」 病入膏肓 杞憂 『史記』 鴻門之会(一)		<input type="checkbox"/> 正確に訓読し、書き下し文にできたか。 <input type="checkbox"/> 句法や重要語の意味を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、登場人物の行動や心情が理解できたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	『枕草子』 中納言参りたまひて 雪のいと高う降りたるを		<input type="checkbox"/> 古語特有の意味を理解し、正確に口語訳できたか。 <input type="checkbox"/> 作者の美意識やものの捉え方について理解を深められたか。
		『史記』 鴻門之会(二)～(三)		<input type="checkbox"/> 正確に訓読し、書き下し文にできたか。 <input type="checkbox"/> 句法や重要語の意味を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、登場人物の行動や心情が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 『史記』について理解を深めることができたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	『大和物語』 姨捨 『更級日記』 門出 物語		<input type="checkbox"/> 文法事項を踏まえながら、正確に口語訳できたか。 <input type="checkbox"/> 助動詞の意味の違いに注意しながら、登場人物の行動や心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 歌物語の歌の役割や文学史的位置づけを理解できたか。 <input type="checkbox"/> 助動詞等の識別に注意し、正確に口語訳できたか。 <input type="checkbox"/> 日記文学の役割や文学史的位置づけを理解できたか。
		『史記』 四面楚歌		<input type="checkbox"/> 正確に訓読し、書き下し文にできたか。 <input type="checkbox"/> 句法や重要語の意味を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 話の展開を踏まえ、筆者の主張を理解できたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	『大鏡』 道長と伊周の競射 花山院の出家		<input type="checkbox"/> 敬語に注意し、正確に口語訳できたか。 <input type="checkbox"/> 敬語に注意し、話の展開を踏まえ、登場人物の行動や心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 歴史物語の文学史的位置づけを理解できたか。
		『孟子』 四端 性善		<input type="checkbox"/> 正確に訓読し、書き下し文にできたか。 <input type="checkbox"/> 句法や重要語の意味を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 儒家の考え方を理解できたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末	『源氏物語』 光源氏の誕生 若紫との出会い		<input type="checkbox"/> 敬語や助動詞に注意し、正確に口語訳できたか。 <input type="checkbox"/> 物語の展開を踏まえ登場人物の行動や心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 『源氏物語』の文学史的位置づけを理解できたか。
		古体詩「桃夭」 文章 「師説」韓愈 「春夜宴桃李園序」李白		<input type="checkbox"/> 句法や重要語を踏まえ、詩の内容を理解し、鑑賞できたか。 <input type="checkbox"/> 正確に訓読し、書き下し文にできたか。 <input type="checkbox"/> 話の展開を踏まえ、筆者の主張を理解できたか。

〇 地歴科

《日本史B》

☆『日本史』を学ぶ意義・目的

「『日本史』は暗記科目」「受験で使うから『日本史』を勉強する」「昔のことを勉強する意味が分からない」等々、『日本史』という科目に関して生徒間で頻繁に交わされる言葉があります。冗談で言っていると思いたいのですが、実際にはかなり本気で言っていると思わざるを得ない状況があり、とても心配している所です。

人間だれでも初めて取り組むことに関しては、かなりの不安や緊張を感じるはずですし、それゆえに失敗してしまうこともあるかもしれません。ただし、2度目以降になれば回を重ねるほど不安や緊張が無くなり、その取り組みはよりスムーズなものとなり、同時に中身も改善されていくものです。言うまでもありませんが、“経験”がもたらしたものです。と言うことは、取り組みをより良いものにしようとするならば、できるだけ多くの“経験”を積みれば良いということになります。ところが、現実には何回“経験”を積んでも全くうまくいかなかった例が数多くあります。どういうことなのでしょう？“経験”しないよりは“経験”した方が良いことはもちろんですが、どうやらただ単に“経験”しただけではほとんど効果を上げることはできず、一定の効果を上げるためには忘れてはいけない非常に大事なポイントがあるのではないかと推測を立てることができそうです。すでに答えがわかっている人もいると思いますが、そのポイントこそが“記憶”と“考察”の2つということになります。いくら“経験”を積んでも忘れてしまったのでは次につながらないし、忘れなくても同じことを繰り返すだけで考えなければ改善はされないのです。

ところで、人間はその一生でどれほどの“経験”をすることができるのでしょうか？1人の人間が“経験”できることおよびその時期はおおよそ決まっており、特に若いうちは何をするにも“経験”が不足しているものです。つまりは、何に取り組んでも初めてのことが多く、うまくいかないことが予想されます。そのような中で可能性に満ちているはずの人生の幅を狭めてしまうことがあるかもしれません。しかし、そのようなことになることを防ぐことは思いのほか難しくはなく、みなさんもすぐに考え付くはずで、先人に学ばば良いのです。先人に学ぶことで疑似とは言え“経験”し、本番に向けて“記憶”と“考察”をしておけば、結果に大きな違いが出ることは歴然です。

どうですか？だんだん『日本史』を学ぶ意義が見えてきたのではないかと思います。日本の歴史は我々日本人の祖先たちが歩んできた道であり、様々な“経験”が詰まったものです。参考にならないはずがありません。『日本史』は決して受験で使うために勉強するものではなく、自分の持つ可能性を広げながらできる限り人生を有意義なものにするために勉強するのです。テストが終わったらすぐにも忘れてしまいそうな暗記ではなく、滅多なことでは忘れないように“記憶”するものなのです。昔のことは未来への鏡であり、『日本史』＝「未来学」なのです。

そして最後に、現在様々な場面で急速に進展している“グローバル”化。みなさんも国際人として活躍することが期待されています。そのような時にも日本人として堂々と振る舞い、語るための根底には自国の歴史や文化が必要になってくると思います。また、自国の歴史や文化を大事にしない者が他国の歴史や文化を大事にできるとは思えません。そのようなことから『日本史』という科目を学ぶことの重要性がいよいよ増しているのではないかと考えています。

☆授業の受け方

『日本史』を学ぶ意義・目的に書いたことを踏まえて、高い意識を持って日々の授業に臨んでほしいと思います。授業ではプリント学習を行う先生、ノートを用意する必要がある先生、タブレットを利用する先生がいますので、担当の先生に確認してください。教科書・図説・史料集は常に用意しておく必要があります。

☆受験勉強の進め方

『日本史』は受験のために学ぶわけではないと言いながらも、受験を全く無視することはできないので一応触れておこうと思います。

教科書・図説・史料集など“記憶”する必要のあるものが非常に多いことが分かっているので、とにかくできる限り早い時期から取り組み始めることが重要になります。言うまでもありませんが、始める時期が遅ければ遅れた分だけ焦りを生じさせ、勉強に集中できなくなり効率が上がりません。『日本史』は、興味・関心さえ持てばいくらかでも自分で学習することができる科目なので、授業で実施されているかどうかということに関係なく取り組むことが可能です。そして単に“記憶”するだけではなく必ずそこに“考察”を加えてください。5W1Hを考えることで記憶が定着していきます。

☆参考書・問題集

様々な所で参考書や問題集が推薦されていますが、それほどこだわる必要は無いと思います。他人が使った良かったものが必ずしも自分に合うとは言いきれません。何も考えずに買ってしまおう生徒の話をよく耳にしますが、ぜひ買う前に自分の目で確認した方が良いでしょう。その結果自分には合わないと感じたならば、周りが良いと言っているでも買わない勇気を持ち、自分の判断で自信を持って自分が最も見やすいと感じたものを選んでください。それこそがあなたにとって最良の参考書・問題集となるはずです。

まずは原始・古代から近代までを1冊通して行うことを勧めます。その際に日本史の『用語集』は1冊あった方がいいでしょう。それが終わったら多くの問題集を解き、夏休みくらいからはテーマ別、記述論述、史料問題集などを勉強してみてください。

令和2年度 年間学習計画表 A

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
日本史B(普通科)		3	『詳説日本史』(山川出版)	『日本史重要史料集』(浜島出版) 『新詳日本史』(浜島出版)
【到達目標】		① 原始・古代から中世までの歴史の展開を、東アジア世界の動向との関連付けを踏まえながら幅広い見方から考察することで歴史的思考力を育成する。 ② 歴史を過去だけではなく、未来への学問としてとらえる態度を養う。		
【学習上の留意点】		① 資料を活用することによって歴史を考察する力を高める。 ② 歴史の動きの中で、日本文化の特色やその伝統の形成についての認識を深める。 ③ できる限り世界的視野に立ち、多面的・多角的に日本史を考察する力を高める。 ④ 歴史上の出来事から未来を見通し、実現していこうとする力を身に付ける。		
月	テスト	進度(単元)	学習内容	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1部原始・古代 第1章日本文化のあけぼの	<input type="checkbox"/> 文化のはじまり <input type="checkbox"/> 農耕社会の成立 <input type="checkbox"/> 古墳とヤマト政権 <input type="checkbox"/> 飛鳥の朝廷	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章律令国家の形成	<input type="checkbox"/> 律令国家への道 <input type="checkbox"/> 平城京の時代 <input type="checkbox"/> 天平文化 <input type="checkbox"/> 平安朝廷の形成	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第3章貴族政治と国風文化	<input type="checkbox"/> 摂関政治 <input type="checkbox"/> 国風文化 <input type="checkbox"/> 荘園と武士 <input type="checkbox"/> 院政と平氏の台頭	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2部中世 第4章中世社会の成立	<input type="checkbox"/> 鎌倉幕府の成立 <input type="checkbox"/> 武士の社会 <input type="checkbox"/> 蒙古襲来と幕府の衰退 <input type="checkbox"/> 鎌倉文化	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第5章武家社会の成長	<input type="checkbox"/> 室町幕府の成立 <input type="checkbox"/> 幕府の衰退と庶民の台頭 <input type="checkbox"/> 室町文化 <input type="checkbox"/> 戦国大名の登場	

2 地歴科 世界史 (A・B)

1. 世界史を学ぶにあたって

「歴史」というと、好き・嫌い、得意・不得意が大きく分かれる科目です。「嫌い」・「不得意」と言う人に理由を聞くと、たいてい「覚えられないから」・「暗記が苦手」という答えが返ってきます。また、「昔のことなんか知ったって何の役にも立たない」と言う人もいます。

さて、そういう人はまず視点を変えてみて下さい。歴史の学習で本当に大切なのは、「覚えること」ではなく「理解すること」です。例えば受験の際に、「1939年 第二次世界大戦開始」「1945年 第二次世界大戦終結」と、年号を一生懸命覚えた人もいるでしょう。確かに年号も重要ですし、テストなどでは当然そうした項目も問われます。しかし、むしろ私たちが本当に学ぶべきなのは、「なぜ1939年に世界大戦が始まることになったのか、それまでにどのような経緯があったのか」「どのような経過を経て1945年に世界大戦が終わったのか、その結果世界はどう変わったのか」などの点にあります。

世界で起こる諸現象には、すべて「因果関係(原因と結果)」があり、それによって人間社会は大きく動いています。みなさんに歴史の授業で注目してほしいのは、まさにそうした「因果関係」です。これまでに人類は何を考え、どのように社会を築き上げてきたのか、何が平和や安定をもたらし、何が悲劇や破滅へと導いたのか、それらを過去の多くの事例から解き明かすことによって、私たちはこれからの社会をどのように築くべきなのか、たくさんの手がかりを得ることができます。言い換えれば歴史とは、「過去を知ることを通して未来を考える」学問です。現在の世界情勢を見ても、実に混沌として様々な問題があふれていますが、それらも過去の歴史の中に発端を見出すことができます。逆に、歴史を学ばず過去の失敗を知らないということは、自分の生きている現在がなぜこのような姿なのかを正しく理解できず、あるいは大きな過ちを繰り返す危険を抱えることにもなります。これは、将来どんな分野で活躍する人にとっても重要なことです。みなさんは、これから良き未来をつくるための担い手として、常に良き道を選択できる知恵を身につけておく必要があります。歴史の知識は、必ずそうした知恵の一助となるはずですが、ぜひ「苦手意識」を取り払い、楽しく積極的に歴史に向き合ってみて下さい。過去には、私たちの想像を超えるような壮大な人生を送った人物や、ユニークな活躍をした人物もたくさん出てきます。そうした人物像に触れることも、「人間とは何か」への理解を深めてくれることでしょう。

2. 授業の心構え

①「読む」・「書く」ことを面倒がらない

歴史とはもともと、「過去の資料を読み解く」学問です。「読む」・「書く」は基本中の基本。教科書や資料集によく目を通し、大切な情報を読み取れる力を身につけましょう。また、ノートを取る際にも、板書をただ書き写すだけでは意味がありません。話の内容を集中して聞き取り、重要だと思うことをどんどん自分なりに書き留めましょう。ノートは「写す」ものではなく、自分で「作る」もの、という意識が大切です。

②バラバラの「丸暗記」をしない

先述したように歴史は「因果関係」です。「人物名」・「国名」・「事件名」などをバラバラに覚えようとするのではなく、意味やつながりをしっかり理解し、ひと続きの物語として頭の中にストーリーを描けるようにして下さい。語句だけの「丸暗記」では、本当の意味での歴史の知識にはなりません。

ただし、習った項目の全てを一度に覚えろというわけではありません。世界史の知識は、積み木のように下から一つ一つ全部積み上げなくても構いません。パズルのように、根気強く一つ一つのピースを隙間に置いていく作業を繰り返していくと、それらがある日ふとつながって、「こういうことだったのか!」と全体像が見えるようになることもあります。

③世界のニュースに関心を持つ

例えば、好きな俳優やアーティストがいる人は、その人の過去の経歴や、子ども時代のエピソードなどにも関心があることでしょう。そうした経歴が、現在のその人の生き方や芸風にどう影響を与えたのかを知るの

新たな発見であり、興味深いことだからです。同様に、ニュースをよく見て現在の世界を把握している人は、過去の出来事を学んだときに、「だからこの地域は今こうなっているのか」「だからこの国とこの国はこういう関係になったのか」と新たな発見があるはずです。歴史を学んで面白いと感じる人の多くは、この「そうだったのか!」という「気づき」が持てる人です。現在の世界に全く興味関心を持たない人は、過去の話にも面白みを見出すことは難しいでしょう。でもそれはとても勿体ないことです。世界には、これだけ多様な人々が暮らし、多様な文化があり、多様な価値観があるのですから。

④地図に関心を持つ

言葉だけではなかなか理解しづらい国と国との関係も、地図を見れば一目瞭然、ということがよくあります。A国とB国とが友好関係にあるのか敵対関係にあるのか、それはその国の位置、地形、周囲の国々の配置、民族分布、その他様々な地理的要因によって決まることも多いからです。歴史というと、「時間」の把握に気を取られがちですが、「空間」の把握も大事。日頃から資料集などを使って地図に親しむ習慣をつけましょう。

3. 予習・復習について

世界史は非常に情報量の多い科目であり、「初めて聞く語句」が1回の授業の中でいくつも出てくことも珍しくありません。50分の授業でなかなか消化しきれない人も、翌日にはまた新しい語句をいくつも習い、その翌日にはまた…と、日々その繰り返しになります。そこで予習として、教科書で次に習う項目をひととおり読んでおき、さらにそこに出てくる登場人物や重要語句などをあらかじめ調べておくと、授業中の負担感がかなり軽減されるはずです。授業時に初めて名前を聞いて「この人、誰?!」と思うのと、「ああこれ、昨日読んだ人だ」と思うのとでは、脳への定着度も相当変わってくることでしょう。そんな予習の際には、『世界史用語集』を1冊持っておくのがおすすめです。(山川出版社・実教出版などから出ています。)最近人気の電子辞書でも調べることはできますが、やはり紙の辞書のほうがはるかに有効です。そのほうが、自分の調べようとしている語句のみでなく、関連する用語が同じページの中にいくつも載っているの、そういう部分にまで目を通すことで知識の幅が広がりますし、そうした調べ方を繰り返すことで知識は一段と深みを増します。

また、特に「覚えるのが苦手」という人は復習が必須です。少なくとも、昨日習った内容を今日はもう全部忘れて、ということのないようにしましょう。今日は今日で、また先の学習が待っています。授業だけでは理解が難しい、という人は、補助ノートを使ってみるのもよいと思います。教科書に沿った内容で、書き込みのノート形式になっているものや、基礎的な問題も載っているものなど、書店には様々な種類の補助ノートがあります。自分に合ったものを選び、利用してみましょう。

4. 定期考査前には

定期考査は、それまでに習った内容から出るので、基本的には授業内容がしっかり頭に入っていれば良いわけですが、とにかく情報量が多いですから、あらかじめしっかり時間をとり、それまでの総復習をすること。一夜漬け・二夜漬けではまず無理と思って下さい。

学習の際には、ノートやプリントをただ眺めただけで、勉強した「つもり」にならないこと。声に出して読み、紙に書いて初めて脳の中に歴史のストーリーが再現できます。それをやらない人は、ただ表面をなぞっただけで、実際には何も覚えていなかった、ということが多いものです。また、読む・書くという作業を実際にやらない人は、本番での誤字・脱字で凡ミス、というケースも非常に多いです。さらに繰り返しますが、語句の暗記で終わるのでなく、物事の意味・つながり・流れをきちんと理解することが重要です。穴埋め的な知識では、なかなか実際の問題には対応できません。授業時のノートやプリントを復習するだけでなく、自分なりにノートにまとめ直したり、年表に書き下ろしたりして勉強している人たちもいます。大切なのは、「よし、これで理解できた」と納得のゆく勉強方法を自分なりに工夫することです。

何よりも、考査前になってから一度に全てやろうと思わないこと。やはり、日頃の授業でしっかり内容を身につけておくことこそが、最善の「試験対策」です。

令和2年度 年間学習計画表 **A**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
世界史B		3	世界史B 新訂版 [実教出版]	アカデミア世界史 [浜島書店]
【到達目標】		世界の歴史の流れを知り、現代の世界ができるまでの過程を理解することによって、社会のあり方や文化の多様性を考察するための思考力を養います。		
【学習上の留意点】		① 近代ヨーロッパの成立過程とそこから生じた様々な問題について理解できたか。 ② 世界の変容と文化の多様性について考察を深めることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	近代ヨーロッパの成立 *ヨーロッパ世界の拡大 *ルネサンスと宗教改革 *主権国家体制の形成 *重商主義と啓蒙専制主義	<input type="checkbox"/> ヨーロッパ世界の拡大 <input type="checkbox"/> ルネサンスと宗教改革 <input type="checkbox"/> 主権国家の形成 <input type="checkbox"/> 重商主義と啓蒙専制主義	
6月 ～ 7月	1学期 期末	*ヨーロッパ諸国の海外進出 *17～18世紀のヨーロッパ文化 *産業革命 *アメリカ独立革命	<input type="checkbox"/> ヨーロッパ諸国の海外進出 <input type="checkbox"/> 17～18世紀のヨーロッパ文化 <input type="checkbox"/> 産業革命 <input type="checkbox"/> アメリカ独立革命	
9月 ～ 10月	2学期 中間	近代社会の成長と国民国家の発展 *フランス革命とナポレオン *ウィーン体制と国民主義 *自由主義改革と社会主義運動 *ヨーロッパの再編 *アメリカ合衆国の発展 *19世紀欧米の文化	<input type="checkbox"/> フランス革命とナポレオン <input type="checkbox"/> ウィーン体制と国民主義 <input type="checkbox"/> 自由主義改革と社会主義運動 <input type="checkbox"/> ヨーロッパの再編 <input type="checkbox"/> アメリカ合衆国の発展 <input type="checkbox"/> 19世紀欧米の文化	
11月 ～ 12月	2学期 期末	帝国主義とアジアの民族運動 *帝国主義と列強の展開 *アジア諸国の植民地化 *世界分割と列強対立 *アジア諸国の改革と民族運動 *第一次大戦とロシア革命	<input type="checkbox"/> 帝国主義と列強の展開 <input type="checkbox"/> アジア諸国の植民地化 <input type="checkbox"/> 世界分割と列強対立 <input type="checkbox"/> アジア諸国の改革と民族運動 <input type="checkbox"/> 第一次世界大戦とロシア革命	
1月 ～ 2月	学年末	現代の世界 *ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 *アジア・アフリカの民族主義 *世界恐慌とファシズム国家 *第二次世界大戦 *東西冷戦の始まりと諸地域	<input type="checkbox"/> ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 <input type="checkbox"/> アジア・アフリカの民族主義 <input type="checkbox"/> 世界恐慌とファシズム国家 <input type="checkbox"/> 第二次世界大戦 <input type="checkbox"/> 東西冷戦の始まりと諸地域	

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
世界史A		2	世界史A 新訂版 [実教出版]	アカデミア世界史 [浜島書店]
【到達目標】		世界の歴史の流れを知り、現代の世界ができるまでの過程を理解することによって、社会のあり方や文化の多様性を考察するための思考力を養います。		
【学習上の留意点】		① 現代世界の成立過程とそこから生じた様々な問題について理解できたか。 ② 世界の変容と文化の多様性について考察を深めることができたか。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	1. 大航海時代 2. ラテンアメリカの変化 3. ルネサンス 中間考査	<input type="checkbox"/> 大航海時代 <input type="checkbox"/> ラテンアメリカの変化 <input type="checkbox"/> ルネサンス	
6月 ～ 7月	1学期 期末	4. 宗教改革 5. 主権国家体制の成立 6. イギリス絶対主義 7. フランス絶対主義 8. 中欧・東欧の発展 9. 世界経済の発展 期末考査	<input type="checkbox"/> 宗教改革 <input type="checkbox"/> 主権国家体制の成立 <input type="checkbox"/> イギリス絶対主義 <input type="checkbox"/> フランス絶対主義 <input type="checkbox"/> 中欧・東欧の発展 <input type="checkbox"/> 世界経済の発展	
9月 ～ 10月	2学期 中間	10. アメリカ独立革命 11. フランス革命 12. 修学旅行事前学習 13. ナポレオン時代 14. 産業革命 15. イギリスの自由主義的改革と 社会主義思想 中間考査	<input type="checkbox"/> アメリカ独立革命 <input type="checkbox"/> フランス革命 <input type="checkbox"/> 修学旅行事前学習 <input type="checkbox"/> ナポレオン時代 <input type="checkbox"/> 産業革命 <input type="checkbox"/> イギリスの自由主義的改革と社会主義思想	
11月 ～ 12月	2学期 期末	16. ウィーン体制と1848年革命 17. アメリカ合衆国の発展 18. 帝国主義 19. 第一次世界大戦 20. ロシア革命 21. ワシントン体制 期末考査	<input type="checkbox"/> ウィーン体制と1848年革命 <input type="checkbox"/> アメリカ合衆国の発展 <input type="checkbox"/> 帝国主義 <input type="checkbox"/> 第一次世界大戦 <input type="checkbox"/> ロシア革命 <input type="checkbox"/> ワシントン体制	
1月 ～ 2月	学年末	22. 戦間期の世界 23. ファシズム体制 24. 第二次世界大戦 25. 冷戦の発生と展開 26. アジア・アフリカの独立 27. 冷戦の変容と冷戦後の世界 学年末考査	<input type="checkbox"/> 戦間期の世界 <input type="checkbox"/> ファシズム体制 <input type="checkbox"/> 第二次世界大戦 <input type="checkbox"/> 冷戦の発生と展開 <input type="checkbox"/> アジア・アフリカの独立 <input type="checkbox"/> 冷戦の変容と冷戦後の世界	

3 数学科

1. 数学の学習方法 市川伸一（東京大学大学院教授）の「心理学からみる数学の学習法」より

- (1) 数学の問題を解くには「知識を使った思考力で解く」ことが大切です。
 - ① 知識とは数学的概念、問題のタイプ、解法の定石（解法のパターン）などです。
 - ② 思考力とは複雑な問題を解きほぐして、自分の知っているパターンに持ち込む力です。
- (2) 勉強しているのに数学ができない人に多い勉強法。
 - ① 問題を解く、答え合わせをする（間違っていたり、できなかったりすれば正解を書きこむ）ということの単純な繰り返しになっている。⇒ 学習になっていない。
 - ② 問題を解く前に解説や例題を読まない。⇒ 問題の意図を理解していない。
 - ③ 教科書の解説を読まない。⇒ 概念を理解していない。
- (3) 問題を解くときに「問題解決の基本的な構え」を大切にする。
 - ① 与えられた問題を分解して知っている問題に持ち込む。
 - ② 結論から逆向きに考えて、何が求めれば良いか考える。
 - ③ 図解、グラフ、式などを書きながら（手を動かしながら）考える。
- (4) 勉強量（今日は2時間勉強した、今日は10題解いたなど）だけで満足していないか。
勉強の質を高めるには、問題を解き終わった後、とくにうまく解けなかったとき、なぜできなかったか、この問題からどういうことがわかったかということをチェックする。定期試験の問題は復習の良い材料です。

2. 学習のポイント

高校での数学の授業を1年間受けてきた皆さんは、そのスピードの速さや、内容の多さは分かっていることと思います。2年生の数学はさらに高度で難しいものとなります。再度、初心にかえて、どのような態度で数学に臨んだらよいかまとめてみましょう。

(1) 必ず予習をする。

進度の速い授業についていくために必要なのが予習です。解説を読み、例題に取り組んでみる。たとえ解けなくてもよいのです。そして、初めての内容を自力で読み理解しようとするのが考える力を育ててくれます。そして授業では、自分でわからなかったポイントに集中して先生の説明を聞くことができます。

(2) 授業中に内容を理解するよう努める。

授業中、先生の板書をノートに写すだけで終わっている人はいませんか。「写す」だけでなく「聞いて」「考え」「理解する」ようにしてください。そして、数学のノートは自分の解法を作るノートにしてください。肝心なことは、教科書の例題の解答のように、誰が見ても思考過程がわかるような解答を作ることを心がけることです。

(3) その日のうちに復習をする。

人の脳はせっかく覚えたことでも忘れるようにできています。記憶の新しいうちに復習しましょう。基本問題レベルでよいのです。たとえ1日30分でも、授業のあった日には必ず復習をするという習慣をつけると、知識は定着していきます。定期考査前になってすべてをまとめて勉強しようとするのは効率的ではありません。

(4) 「わかる」から「できる」へ。

授業で「わかった」と思ったら、次の段階「できる」に進めるのはあなた自身の努力です。人の力を借りないで、まず一人で苦しんでみてください。すぐに解答を見る、すぐに友人にきくなど、すぐ他に頼ったものはすぐ忘れます。その前に問題を整理し、知識を総動員して思考の道を切り開く努力をしてください。「そんなことを言われても何をどうすればよいのか分からない！」という人へ少しだけヒントです。「誤答訂正ノート」はしっかりと作っていますか？何をどのように考えて間違えてしまったのか。また、どのように考えれば良かったのか。しっかりとノートに記しておきましょう。実は、自分が悩む問題には特徴があるかもしれません。悩んでいる人は誤答訂正ノートを作り見返すことをお勧めします。

令和2年度 年間学習計画表 **A**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学Ⅱ（文系）		4	数学Ⅱ[数研出版]	教科書傍用問題集「基本と演習テーマ数学Ⅱ or Ⅱ+B」
【到達目標】		複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数、微分・積分について理解し、基礎的な知識の習得を図る。また、それらを的確に活用する能力、事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、活用する態度を養う。さらに入試に必要な知識と解法を学ぶとともに実践力を高める。		
【学習上の留意点】		①新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ②問題演習や課題などに積極的に取り組み、主体的・継続的に学習する姿勢を身につけたか。 ③課題の提出や小テストに取り組むことにより、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円	<input type="checkbox"/> 直線上の点 <input type="checkbox"/> 平面上の点 <input type="checkbox"/> 直線の方程式 <input type="checkbox"/> 2直線の関係 <input type="checkbox"/> 円の方程式 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 軌跡と領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数	<input type="checkbox"/> 軌跡と方程式 <input type="checkbox"/> 不等式の表す領域 <input type="checkbox"/> 角の拡張 <input type="checkbox"/> 三角関数 <input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2節 加法定理	<input type="checkbox"/> 三角関数の性質 <input type="checkbox"/> 三角関数の応用 <input type="checkbox"/> 加法定理 <input type="checkbox"/> 加法定理の応用	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	<input type="checkbox"/> 指数の拡張 <input type="checkbox"/> 指数関数 <input type="checkbox"/> 対数とその性質 <input type="checkbox"/> 対数関数 <input type="checkbox"/> 常用対数 <input type="checkbox"/> 微分係数 <input type="checkbox"/> 導関数とその計算 <input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 関数の増減と極大・極小	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3節 積分法	<input type="checkbox"/> 関数の増減・グラフの応用 <input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分 <input type="checkbox"/> 定積分と面積	

※ 課題テスト（4月・9月・1月）：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 小テスト：各章ごとに教科書や問題集の問題で確認テストを実施する。

※ 実力テスト（7月・11月・1月・2月）：学習した範囲で問題を選択し、標準レベルから応用レベルの模試にチャレンジする。

令和2年度 年間学習計画表 **A**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学B (文系選択)		2	数学B [数研出版]	教科書傍用問題集「基本と演習テーマ数学II+B」
【到達目標】		ベクトルと数列について理解し、基礎的な知識の習得を図る。また、それらを的確に活用する能力、事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、活用する態度を養う。さらに入試に必要な知識と解法を学ぶとともに実践力を高める。 ① ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係を、ベクトルを用いて表現し活用できるようにする。 ② 数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、活用できるようにする。		
【学習上の留意点】		①新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ②問題演習や課題などに積極的に取り組み、主体的・継続的に学習する姿勢を身につけたか。 ③課題の提出や小テストに取り組むことにより、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	<input type="checkbox"/> ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> 三角形の面積	<input type="checkbox"/> ベクトルの演算 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2節 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> 位置ベクトル <input type="checkbox"/> 図形のベクトルによる表示	<input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 点と直線の距離
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 空間の点 <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 平面の方程式	<input type="checkbox"/> 空間のベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> 座標空間における図形
11月 ～ 12月	2学期 期末	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	<input type="checkbox"/> 数列と一般項 <input type="checkbox"/> 等差数列の和 <input type="checkbox"/> 等比数列の和	<input type="checkbox"/> 等差数列 <input type="checkbox"/> 等比数列 <input type="checkbox"/> 複利計算
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 和の記号 Σ <input type="checkbox"/> いろいろな数列の和 <input type="checkbox"/> 漸化式 <input type="checkbox"/> 図形と方程式 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 階差数列 <input type="checkbox"/> 特性方程式と階差数列 <input type="checkbox"/> 隣接3項間の漸化式 <input type="checkbox"/> 数列の総合問題

※ 小テスト : 各章ごとに教科書や問題集の問題で確認テストを実施する。

※ 実力テスト(7月・11月・1月・2月) : 学習した範囲で問題を選択し、標準レベルから応用レベルの模試にチャレンジする。

令和2年度 年間学習計画表 **B** **SSC**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学Ⅱ・B (理系)		7	数学Ⅱ, 数学B, 数学Ⅲ[数研出版]	教科書傍用問題集「基本と演習テーマ数学Ⅱ+B」
【到達目標】		数学ⅡBおよび数学Ⅲの学習内容について理解し、基礎的な知識の習得を図る。また、それらを的確に活用する能力、事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、活用する態度を養う。さらに入試に必要な知識と解法を学ぶとともに実践力を高める。		
【学習上の留意点】		①新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ②問題演習や課題などに積極的に取り組み、主体的・継続的に学習する姿勢を身につけたか。 ③課題の提出や小テストに取り組むことにより、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅱ」第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	<input type="checkbox"/> 直線上の点 <input type="checkbox"/> 直線の方程式 <input type="checkbox"/> 円の方程式 <input type="checkbox"/> 軌跡と方程式	<input type="checkbox"/> 平面上の点 <input type="checkbox"/> 2直線の関係 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 不等式の表す領域
		「数学Ⅱ」第4章 三角関数 第1節 三角関数	<input type="checkbox"/> 角の拡張 <input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ <input type="checkbox"/> 三角関数の応用	<input type="checkbox"/> 三角関数 <input type="checkbox"/> 三角関数の性質
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2節 加法定理	<input type="checkbox"/> 加法定理	<input type="checkbox"/> 加法定理の応用
		「数学Ⅱ」第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	<input type="checkbox"/> 指数の拡張 <input type="checkbox"/> 対数関数	<input type="checkbox"/> 指数関数 <input type="checkbox"/> 常用対数 <input type="checkbox"/> 対数とその性質
9月 ～ 10月	2学期 中間	「数学B」第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの成分	<input type="checkbox"/> ベクトルの演算 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積
		「数学B」第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 空間の点 <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用	<input type="checkbox"/> 空間のベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> 座標空間における図形
		「数学B」第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列	<input type="checkbox"/> 数列と一般項 <input type="checkbox"/> 和の記号 Σ	<input type="checkbox"/> 等差数列 <input type="checkbox"/> 等比数列 <input type="checkbox"/> 階差数列 <input type="checkbox"/> いろいろな数列の和
11月 ～ 12月	2学期 期末	第3節 数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 漸化式	<input type="checkbox"/> 数学的帰納法
		「数学Ⅱ」第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	<input type="checkbox"/> 微分係数 <input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分と面積	<input type="checkbox"/> 導関数とその計算 <input type="checkbox"/> 関数の増減と極大・極小 <input type="checkbox"/> 関数の増減・グラフの応用 <input type="checkbox"/> 定積分
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学Ⅲ」第1章 複素数平面	<input type="checkbox"/> 複素数平面 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理	<input type="checkbox"/> 複素数の極形式と乗法、除法 <input type="checkbox"/> 複素数と図形
		「数学Ⅲ」第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 放物線 <input type="checkbox"/> 2次曲線と直線 <input type="checkbox"/> 曲線の媒介変数表示 <input type="checkbox"/> コンピュータといろいろな曲線	<input type="checkbox"/> 楕円 <input type="checkbox"/> 双曲線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の平行移動 <input type="checkbox"/> 2次曲線の性質 <input type="checkbox"/> 極座標と極方程式

※ 課題テスト (4月・9月・1月) : 長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 小テスト : 各章ごとに教科書や問題集の問題で確認テストを実施する。

※ 実力テスト (7月・11月・1月・2月) : 学習した範囲で問題を選択し、標準レベルから応用レベルの模試にチャレンジする。

令和2年度 年間学習計画表 **理数**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
理数数学Ⅱ		7	数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲ [数研出版]	4プロセス、青チャート
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅱ」第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明	<input type="checkbox"/> 3次式の展開と因数分解 <input type="checkbox"/> 二項定理 <input type="checkbox"/> 整式の割り算 <input type="checkbox"/> 分数式とその計算 <input type="checkbox"/> 恒等式 <input type="checkbox"/> 等式の証明 <input type="checkbox"/> 不等式の証明	
		「数学Ⅱ」第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	<input type="checkbox"/> 複素数とその計算 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係 <input type="checkbox"/> 剰余の定理と因数定理 <input type="checkbox"/> 高次方程式	
		「数学Ⅱ」第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	<input type="checkbox"/> 直線上の点 <input type="checkbox"/> 平面上の点 <input type="checkbox"/> 直線の方程式 <input type="checkbox"/> 2直線の関係	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2節 円 第3節 軌跡と領域	<input type="checkbox"/> 円の方程式 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 軌跡と方程式 <input type="checkbox"/> 不等式の表す領域	
		「数学Ⅱ」第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	<input type="checkbox"/> 微分係数 <input type="checkbox"/> 導関数とその計算 <input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 関数の増減と極大・極小 <input type="checkbox"/> 関数の増減・グラフの応用 <input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分 <input type="checkbox"/> 定積分と面積	
		「数学B」第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算	<input type="checkbox"/> ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの演算 <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2節 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> 位置ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 図形のベクトルによる表示	
		「数学B」第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 空間の点 <input type="checkbox"/> 空間のベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 座標空間における図形	
		「数学B」第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 数列と一般項 <input type="checkbox"/> 等差数列 <input type="checkbox"/> 等差数列の和 <input type="checkbox"/> 等比数列 <input type="checkbox"/> 等比数列の和 <input type="checkbox"/> 和の記号 Σ <input type="checkbox"/> 階差数列 <input type="checkbox"/> いろいろな数列の和 <input type="checkbox"/> 漸化式 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学Ⅲ」第1章 複素数平面	<input type="checkbox"/> 複素数平面 <input type="checkbox"/> 複素数の極形式と乗法、除法 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理 <input type="checkbox"/> 複素数と図形	
		「数学Ⅲ」第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 放物線 <input type="checkbox"/> 楕円 <input type="checkbox"/> 双曲線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の平行移動 <input type="checkbox"/> 2次曲線と直線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の性質 <input type="checkbox"/> 曲線の媒介変数表示 <input type="checkbox"/> 極座標と極方程式 <input type="checkbox"/> コンピュータといろいろな曲線	
		「数学Ⅲ」第3章 関数	<input type="checkbox"/> 分数関数 <input type="checkbox"/> 無理関数 <input type="checkbox"/> 逆関数と合成関数	
1月 ～ 3月	3学期 期末	「数学Ⅲ」第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	<input type="checkbox"/> 数列の極限 <input type="checkbox"/> 無限等比数列 <input type="checkbox"/> 無限級数 <input type="checkbox"/> 関数の極限 <input type="checkbox"/> 三角関数と極限 <input type="checkbox"/> 関数の連続性	
		「数学Ⅲ」第5章 微分法	<input type="checkbox"/> 微分係数と導関数 <input type="checkbox"/> 導関数の計算 <input type="checkbox"/> いろいろな関数の導関数 <input type="checkbox"/> 第n次導関数 <input type="checkbox"/> 関数のいろいろな表し方と導関数	

※ 課題テスト(4月・9月・1月)：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト(7月・11月・1月・2月)：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト：各章ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する

4 生物基礎

(1) 予習について

生物基礎の予習は特に苦手な人以外には必要ありません。その時間を数学や英語などの教科に回して下さい。特に予習が必要な場合があるときには、教科担当からアドバイスがあります。

(2) 授業について

先生の話をしっかり聞いて、必要なことはノートに自分でメモしましょう。また、生物基礎の教科書には、発展や参考といった内容がたくさん載っていますが、その中で2年生が学ぶべき内容を選んで教えます。そのような点も授業で抑えておきましょう。テスト範囲の掲示には、必要でない発展のページや問題集の番号が掲示されます。

(3) 復習について

解らなかつたところは、すぐに先生に聞きましょう。復習は、問題集のベストフィットをやれば十分です。テスト勉強で利用すると、高得点が取れます。

令和2年度 年間学習計画表 **A**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
生物基礎		3	改訂高等学校生物基礎 第一学習社	ベストフィット生物基礎
【到達目標】		① 共通テストで高得点をとるための理解をする。 ② 3年で生物特講はないので、この1年ですべてを学び、その後は受験可能状態にする。 ③ 生物学（自然科学）に対する思考力・興味を持つ。		
【学習上の留意点】		① テストは、文系で共通テストを行う。 ② 第2学年で、教科書の内容をすべて終わらせる。 ③ 各教科担当の学習アドバイスに従って学習を進める。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝	生物の多様性と共通性の由来 生物の共通性—基本的な特徴— 生物の共通性—細胞— 生命活動とエネルギー 代謝と酵素	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の発現	エネルギーの流れ ミトコンドリアと葉緑体の由来 遺伝情報を担うDNA DNAの構造 遺伝情報とタンパク質 RNAのはたらき タンパク質の合成 染色体とDNAの遺伝情報	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第3節 遺伝情報の分配 第3章 生物の体内環境 第1節 体液という体内環境	細胞分裂と遺伝情報の分配 分化した細胞の遺伝情報 DNAの遺伝情報と遺伝子, ゲノム 体内環境と恒常性 体液とその循環 血液の凝固と線溶 体液の組成と生命活動 腎臓と肝臓の役割	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2節 腎臓と肝臓 第3節 神経とホルモンの調節	腎臓のはたらき 肝臓のはたらき 神経による調節—自律神経— ホルモンによる調節—内分泌系— 自律神経とホルモンによる調節	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第4節 免疫 第4章 バイオームの多様性と分布 第1節 生態系の物質生産 第2節 生態系と生物の多様性	物理的・化学的防御 自然免疫 獲得免疫 免疫と病気 気候とバイオーム さまざまな植生・遷移 生態系におけるエネルギーの移動 生物多様性の3つのとらえ方 生物多様性保全の意義	

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：任意

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
生物基礎		2	改訂高等学校生物基礎 第一学習社	ベストフィット生物基礎
【到達目標】		① 共通テストで高得点をとるための理解をする。 ② 3年で生物を選択した場合の基礎知識を身につける。 ③ 生物学（自然科学）に対する思考力・興味を持つ。		
【学習上の留意点】		① テストは、理系で共通テストを行う。 ② 第4章は、3年で選択して学ぶ。 ③ 各教科担当の学習アドバイスに従って学習を進める。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝	生物の多様性と共通性の由来 生物の共通性—基本的な特徴— 生物の共通性—細胞— 生命活動とエネルギー 代謝と酵素	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA	光合成 呼吸 エネルギーの流れ ミトコンドリアと葉緑体の由来 遺伝情報を担うDNA DNAの構造	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2節 遺伝情報の発現 第2節 遺伝情報の分配	遺伝情報とタンパク質 RNAのはたらき タンパク質の合成 染色体とDNAの遺伝情報 細胞分裂と遺伝情報の分配 分化した細胞の遺伝情報 DNAの遺伝情報と遺伝子, ゲノム	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第3章 生物の体内環境 第1節 体液という体内環境 第2節 腎臓と肝臓	体内環境と恒常性 体液とその循環 血液の凝固と線溶 体液の組成と生命活動 腎臓と肝臓の役割 腎臓のはたらき 肝臓のはたらき	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3節 神経とホルモンの調節 第4節 免疫	神経による調節—自律神経— ホルモンによる調節—内分泌系— 自律神経とホルモンによる調節 物理的・化学的防御 自然免疫 獲得免疫 免疫と病気	

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：任意

地学基礎

1 はじめに

地学基礎でどんなことが学べるのでしょうか。そもそも地学とは「地球科学」の省略した言い方ですので、地学基礎で学ぶ内容は物理的内容、化学的内容、生物的内容も含んだ地球に関する科学全般の基礎的内容を学習する科目です。具体的には、天文、地球物理、地質、気象、地球環境など、皆さんの周囲を取り巻く自然環境そのものが学習する素材となります。

2 地学基礎の授業

(1) 教科書・使用教材

教科書 地学基礎 (第一学習社)
教材 スクエア 最新図説地学 (第一学習社)
問題集 セミナー地学基礎 (第一学習社)

(2) 授業について

この授業は、地学(天文、地球物理、地質、地球の歴史、気象、地球環境)に興味のある人、または、国公立大学を目指す人のための授業になります。今ある地球の危機(地球温暖化など)についても学びます。興味のある人、地学基礎で受験を希望する人は選択してください。

地学基礎年間学習計画表 A B

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
地学基礎		2	高等学校 地学基礎(第一学習社)	セミナー地学基礎(第一学習社) スクエア最新図説地学(第一学習社)
到達目標		身の回りの自然現象、特に地学的現象に興味・関心を持ち、知識を深めることができる。		
学習上の留意点		① 授業を受けながら、疑問に思ったことは、メモしておきましょう。 ② 授業では、単元ごとに問題演習を行います。その中から定期テストに出題しますので、集中して解答してください。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1節 宇宙の構成 (p4～p9) 1. 宇宙の始まり 2. 宇宙の広がりや銀河の分布 第2節 太陽 (p10～p21) 1. 太陽の組成 2. 太陽の構造 3. 太陽の誕生と将来	(1) 太陽の誕生と終末に関心を持ち、太陽の進化の過程について意欲的に学習できたか。 (2) 太陽の進化の過程を示したグラフを判読し、温度や質量が関わっていることを考察することができたか。 (3) 星間物質、星間雲、核融合反応による元素の形成、原始星、主系列星、赤色巨星、惑星状星雲、白色矮星を理解し、知識として身に付けられたか。	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 太陽系の中の地球 (p22～p39) 1. 太陽系の構造 2. 太陽系の誕生 3. 地球型惑星① 4. 地球型惑星② 5. 木星型惑星 6. 惑星・衛星以外の天体 7. 生命の惑星・地球	(1) 地球、月、水星、金星、火星の特徴、月の形成過程を理解したか。 (2) 木星、土星、天王星、海王星の特徴を理解し、知識を身に付けたか。 (3) 小惑星、太陽系外縁天体、彗星、隕石、流星、オールトの雲を理解し、知識を身に付けたか。 (4) ハビタブルゾーン、原始大気、マグマオーシャン、原始海洋の形成過程から地球に生命が存在する条件について理解し、知識を身に付けたか。	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第1節 地球の姿 (p46～p61) 1. 地球の形と大きさの測定 2. 地球の形と大きさ 3. 地球内部の構造 地球内部の構造 4. 地球の構成物質 5. プレート運動 6. 大山脈の形成	(1) エラトステネスによる測定をもとに、地球の大きさを求めることができる。 (2) 地球の形と大きさの測定方法、1mの長さを理解し、知識を身に付けたか。 (3) 地球楕円体、地球の起伏、平均海面について理解し、知識を身に付けたか。 (4) 地球の層構造(地殻・マントル・外核・内核)、地球内部の構成物質の違いによる区分とかたさの違いによる区分を理解し、知識を身に付けたか。	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2節 火山活動と地震 (p62～p83) 1. 火山の分布 2. 火山地形 3. 火山の噴火と火成岩 4. 火成岩の種類 5. 地震が発生するしくみ 6. 地震の動き	(1) マグマの発生する場所について考察することができたか。 (2) 噴火の様式の違いと火山の形を理解し、知識を身に付けたか。 (3) 火成岩の産状と組織、火山岩と深成岩の違いを理解し、知識を身に付けたか。 (4) 火成岩のおもな造岩鉱物、火成岩の分類、造岩鉱物の特徴を理解したか。 (5) 震源断層、本震と余震、変位量について理解し、知識を身に付けている。 (7) 地震波や大森公式について理解し、知識を身に付けたか。	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第1節 地層や岩石と地質構造(p88～p99) 1. 地層の形成 2. 堆積岩 3. 地殻の変動 4. 変成岩 第2節 地球環境と生物界の変遷 1. 化石 2. 地層の対比 3. 地質時代とその区分	(1) 河川のはたらきと地形、地層の堆積構造を理解し、知識を身に付けたか。 (2) 堆積岩の形成、堆積岩の種類を理解し、知識を身に付けているか。 (3) 断層の形式、褶曲、整合と不整合を理解し、知識を身に付けているか。 (4) 広域変成岩、接触変成作用と接触変成岩を理解し、知識を身に付けているか。 (5) さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石について理解しに付けたか。 (6) かぎ層による地層の対比、化石による地層の対比について理解し、知識を身に付けたか。 (7) 相対年代と絶対年代、地質時代について理解し、知識を身に付けたか。 (8) 先カンブリア時代の地球環境の変化と生物界の変遷を理解し、知識を身に付けたか。	

化学（Bコース, SSCコース）

授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「アクセスノート」や「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。不明なところがあったら、なるべく早く克服しましょう。化学の授業は既習内容を用いて次の内容を学習することがほとんどなので、不明なところを放置していると、連続的に分からなくなってしまう。
- 「アクセスノート」は用語の確認や基礎演習が多く、普段の学習に向いています。一方、「セミナー」は標準演習が多く、定期考査対策の学習に向いています。授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意しておきましょう。
- タブレットを有効に活用しましょう。「スタディサプリ」は普段の予習・復習にうってつけですし、気になる実験があれば「You Tube」で実際の様子を確認することもできます。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
化学		4	化学基礎（数研出版） 化学（数研出版）	アクセスノート 化学 改訂版（実教出版） 2019 セミナー 化学基礎＋化学（第一学習社）
月	テスト	進度（単元）		
4月 ～ 5月	1学期 中間	第2編 物質の変化		
		第2章 電池と電気分解 1. 電池	2. 電気分解	
		第1編 物質の状態		
		第1章 粒子の結合と結晶 1. 原子とイオン 2. イオン結合とイオン結晶 3. 分子と共有結合 4. 分子間にはたらく力	5. 共有結合結晶 6. 金属結合と金属結晶 7. 非晶質	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第1編 物質の状態		
		第2章 物質の状態変化 1. 粒子の熱運動 2. 三態の変化とエネルギー	3. 気液平衡と蒸気圧	
		第3章 気体 1. 気体の体積 2. 気体の状態方程式	3. 混合気体の圧力 4. 実在気体	
		第4章 溶液 1. 溶解とそのしくみ 2. 溶解度		
		3. 希薄溶液の性質 4. コロイド溶液		
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2編 物質の変化		
		第1章 化学反応とエネルギー 1. 化学反応と熱 2. 化学反応と光		
		第3章 化学反応の速さとしくみ 1. 化学反応の速さ 2. 反応条件と反応速度	3. 化学反応のしくみ	
		第4章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡状態の変化	3. 電解質水溶液の化学平衡	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第3編 無機化学		
		第1章 非金属元素 1. 元素の分類と周期表 2. 水素 3. 貴ガス元素 4. ハロゲン元素	5. 酸素・硫黄 6. 窒素・リン 7. 炭素・ケイ素	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3編 無機化学		
		第2章 金属元素（Ⅰ）—典型元素— 1. アルカリ金属元素 2. 2族元素	3. アルミニウム・亜鉛 4. スズ・鉛	
		第3章 金属元素（Ⅱ）—遷移元素— 1. 遷移金属の特徴 2. 鉄 3. 銅	4. 銀 5. 金・クロム・マンガン 6. 金属イオンの分離・確認	

令和2年度 理数科2年生 SS 理数化学

年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
2年理数化学		2	数研 改訂化学基礎 改訂化学	セミナー化基化学 アクセスノート化基・化学
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	3章 酸化還元反応 ・金属の製錬 ・電池		・正極と負極, 起電力, 正極活物質と負極活物質, 化学電池 ・ダニエル電池の構成と反応
6月 ～ 7月	1学期 期末	・電気分解		・電気分解とは何か ・電気分解における化学反応 ・電気分解の法則とその応用
9月 ～ 10月	2学期 中間	化学 ・第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態 ・物質の三態 ・気体・液体間の状態変化		・融解(融解熱), 凝固(凝固熱), 蒸発(蒸発熱と凝縮熱), 沸点 ・分子間力・分子の熱運動と気体の圧力, 圧力の単位と大気圧
11月 ～ 12月	2学期 期末	2章 気体の性質 ・気体 ・気体の状態方程式 3章 溶液の性質 ・溶解 ・希薄溶液の性質		・ボイルの法則 ・シャルルの法則, ・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式, 気体定数, アボガドロの法則 ・混合気体の分圧, ドルトンの分圧の法則 ・実在気体のずれの変化と要因 ・溶解現象・過飽和溶液と結晶の析出 ・質量%濃度, ・気体の溶解度とヘンリーの法則 ・蒸気圧降下と沸点上昇, 沸点上昇度とモル沸点上昇 ・凝固点降下, 凝固点降下度とモル凝固点降下
1月 ～ 3月	3学期 学年末	・コロイド 第2編 化学反応と熱・光(2) ・化学反応と熱		・コロイド粒子の大きさ, コロイド溶液(分散媒と分散質), ゼルとゲル, 分散コロイド, 分子コロイド, 会合コロイド, ミセル ・反応熱と熱化学方程式 ・ヘスの法則 ・化学反応と光

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
2年SS理数物理		2	改訂版 物理基礎 (数研出版) 改訂版 物理 (数研出版)	セミナー物理基礎+物理 (第一学習社)
【到達目標】		① 基本的な概念や原理、法則を理解し、物理学的に探求する能力と態度を育てます。 ② 物理的な事象の観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高めます。		
【学習の仕方】		① 授業で学習した内容について、教科書にある問題・問題集を解くこと ② 補習に参加するなどしてレベルの高い問題にも触れた方がよい。 ③ 復習と問題の解き直しは必ず行うこと。		
【学習上の留意点】		② 授業で扱えなかった、基本問題・応用問題を日頃から解いておくこと ② 公式は覚えただけでは使えない。その意味を充分理解し、法則などをもとに自分で公式を導きだせるようにしておくこと。そうしないと最初は良くても後で大変苦勞します。 ③ 入試はその問題で何が問われているのかを読み解く力も必要です。日頃から国語力を高める努力もしてほしい。 ④ 別解がある場合、それが求められるようになると、理解度が格段に上がる。是非実行してください。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	力学 運動量・力積 等速円運動・慣性力	<input type="checkbox"/> ① 基礎checkの問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ② 基本例題は自力で解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ④ 応用問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ⑤ 中間テストで6割(60点)はとれた	
6月 ～ 7月	1学期 期末	力学 単振動 万有引力	<input type="checkbox"/> ① 基礎checkの問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ② 基本例題は自力で解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ④ 応用問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ⑤ 期末テストで6割(60点)はとれた	
9月 ～ 10月	2学期 中間	熱力学 気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化	<input type="checkbox"/> ① 基礎checkの問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ② 基本例題は自力で解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ④ 応用問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ⑤ 中間テストで6割(60点)はとれた	
11月 ～ 12月	2学期 期末	波動 ドップラー効果 光の性質 レンズ	<input type="checkbox"/> ① 基礎checkの問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ② 基本例題は自力で解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ④ 応用問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ⑤ 期末テストで6割(60点)はとれた	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	波動 光の干渉と回折 電磁気 電場と電位	<input type="checkbox"/> ① 基礎checkの問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ② 基本例題は自力で解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ④ 応用問題は解ける → 暗記レベルまで到達 <input type="checkbox"/> ⑤ 学年末テストで6割(60点)はとれた	

※物理で受験する者は、1学期中に力学の学習が終わる予定です。学習が済んだ分野から問題のレベルを上げていき、入試に対応できる力をつけていくよう心がけること。

SS 理数生物（2年）

（1）予習・復習について

生物の予習、復習は、苦手な人以外は必要ありません。特に、必要な場合は、教科担当からアドバイスがあります。

（2）授業について

先生の話をしっかり聞いて、必要なことは自分でメモしましょう。また、授業中、分からないところがあれば、すぐに聞いて下さい。生物基礎と生物で、重複している部分がありますが、SS 理数生物では、これらも1、2学年のうちから学んでいきます。また、教科書には、発展や参考といった内容が、数多く掲載されています。授業で全てやることはできませんが、内容を理解しておく必要があります。

（3）実験について

生物実験を行います。実験後は、指定された様式で、プリントやレポートを提出してもらいます。実験内容を十分に理解し、その他の資料も参考にして、レポートを作成してください。提出期限厳守です。

（4）考査およびその学習方法について

考査範囲は、教科書のページと問題集の番号を伝えます。

生物の学習は、教科書を理解し、その後、問題集を解くと良いでしょう。問題数がかかなりあるので、考査2週間前には準備を始めましょう。基本問題から発展問題まで十分に理解できれば、考査、共通テスト、個別試験に対応できる学力がつかます。

令和2年度 年間学習計画表 理数

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS生物 (2年)		2	高等学校改訂生物基礎 高等学校改訂生物 第一学習社	セミナー生物基礎+生物 図説
【到達目標】		① 生命現象を科学的な視点で理解できるようにする。 ② データーを読み、それをふまえた考察ができる能力を養う。 ③ センター試験、および個別試験に対応できる学力を養う。		
【学習上の留意点】		① 1学年に引き続き、生物基礎、生物の重複分野は、まとめて学習する。 ② 生物分野の後半は、3学年の生物選択者が学ぶ。 ③ 定期考査は、センター試験、個別試験に対応できるレベルとなる。		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	<生物基礎> 第3章 生物の体内環境 第2節 体内環境の維持のしくみ		<input type="checkbox"/> 自律神経系の働きと構造 <input type="checkbox"/> 内分泌による調節 <input type="checkbox"/> 自律神経系と内分泌による調節
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 生体防御		<input type="checkbox"/> 物理的、化学的な生体防御 <input type="checkbox"/> 自然免疫 <input type="checkbox"/> 獲得免疫 <input type="checkbox"/> 免疫に関する身近な疾患 <input type="checkbox"/> 免疫と医療
9月 ～ 10月	2学期 中間	第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 第2節 バイオームとその分布		<input type="checkbox"/> 植生 <input type="checkbox"/> 植生の遷移 <input type="checkbox"/> 世界のバイオーム <input type="checkbox"/> 日本のバイオーム
11月 ～ 12月	2学期 期末	第5章 生態系とその保全 第1節 生態系 第2節 生態系のバランスと保全 <生物> 第1章 細胞と分子 第2節 細胞膜の働き とタンパク質		<input type="checkbox"/> 生態系の成り立ち <input type="checkbox"/> 生態系内の物質循環とエネルギーの流れ <input type="checkbox"/> 生態系のバランスと保全 <input type="checkbox"/> 細胞膜の構造 <input type="checkbox"/> 細胞膜の働き
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2章 代謝 第2節 炭酸同化 第3節 窒素同化 第4節 異化		<input type="checkbox"/> 光合成と葉緑体 <input type="checkbox"/> 光合成の過程 <input type="checkbox"/> 細菌による炭酸同化 <input type="checkbox"/> 窒素同化 <input type="checkbox"/> 発酵 <input type="checkbox"/> 呼吸の過程

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：選択者のみ

5 体育（第2学年）

（1）体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

（2）2学年の学習について

1. 指導目標

- ・ 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して高度な運動技能を習得し、強健な心身の発達を促す。
- ・ 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等も学ぶ。

2. 評価について

授業態度（積極的な活動、体力の向上・技能の習得）、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループノートの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の4つの観点から総合的に評価する。

運動の技能

- ・ 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行っている。
- ・ 各種目の特性にあった運動技能を高めている。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。

関心・意欲・態度

- ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正・協力・責任などの態度が身に付いている
- ・ 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付けや施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・ 健康・安全に留意して自ら運動をしようとしている。

思考・判断

- ・ 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指している。
- ・ 課題を解決するために、活動の仕方を考え、工夫している。

知識・理解

- ・ 運動技能の構造と運動の学び方理解し、知識を身に付けている。
- ・ 各種目のルールや練習法を理解し、知識を身に付けている。
- ・ 体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3. 授業について

1) 単位数 普通科3単位・理数科3単位

2) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

3) その他

- ・ 4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、男子短パン、女子ハーフパンツ。

- ・禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類・ジャージ期間のワイシャツ着用
- ・体育用のソックスを用意。
- ・健康上の不安、相談がある場合には教科担当等によく聞く。

(3) 学習内容

領域	領域の内容・単元	第1学年		第2学年		第3学年	備考	
		男	女	男	女	男女共修		
体育理論		○	○	●	●	○		
体づくり	体力を高める運動(持久走)	○	○	●	●	○		
	体をほぐす運動	○	○	●	●	○		
陸上競技	長距離走	○	○	●	●	○		
	三種競技(走・跳・投)	○	○			□※1		
水泳	各種泳法	○	○	●	●		※2	
	遠泳・競泳(複数の泳法)	○	○	●	●	□※1	※3	
武道	柔道	○		●		□※1		
器械運動	マット運動		○	●			※4	
	跳び箱運動		○	●		□※1		
	鉄棒運動		○	●				
球技	ゴール型	バスケットボール		○	●		□※1	
		ハンドボール	○				□※1	
		サッカー	○	○			□※1	
	ネット型	バレーボール			●	●	□※1	
		テニス					□※1	
		バドミントン					□※1	
		卓球					□※1	
	ベースボール型	ソフトボール					□※1	

※1 選択授業

※2 1年生にクロール・平泳ぎ、2年生に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年生は2種類の泳法・2年生は4種類の泳法で行う

※4 3種類の運動の中から1種目または2・3種目を行う

(4) 年間学習計画 **A** **B** **SSC** **理数**

科目名等		単位数	教科書名		副教材等	
体育		3	現代高等保健体育			
【到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、専門的な運動技能の習得と、体力の向上がみられる。 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度が身につく。 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等を習得する。 				
学期	月	男子		女子		自己チェック項目
		領域	内容	領域	内容	
第一学期	4月	体育理論（運動やスポーツの技術と技能・運動やスポーツの技能の上達過程）				
		体作り運動	体力を高める運動	体作り運動	体力を高める運動	
		陸上競技	持久走 1500m	陸上競技	持久走 1000m	
	5月	球技	バレーボール	球技	ハンドボール	
	6月	水泳	泳法(バタフライ・背泳ぎ) タイムトライアル(各泳法)	水泳	泳法(バタフライ・背泳ぎ) タイムトライアル(各泳法)	
		タイムトライアル(個人メドレー)				
第二学期	9月	体作り運動	体ほぐし運動	体作り運動	体ほぐし運動	
		器械運動	マット運動 鉄棒	球技	バレーボール	
		跳び箱				
	10月	武道	柔道			
	11月	体育理論（運動やスポーツの技能と体力の関係）				
		陸上競技	長距離走 約5 km	陸上競技	長距離走 約4 km	
12月	武道	柔道	球技	バレーボール		
第三学期	1月	体作り運動	体ほぐし運動	体作り運動	体力を高める運動	
		球技	バスケットボール			
	2月					
	3月	体育理論（運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方）				

(5) その他

5 保健（第2学年）

（1）保健の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の育成
2. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、正しく判断し行動できる能力の育成

（2）2学年の学習について

1. 指導目標

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。

社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。

2. 評価について

各学期の期末考査の得点を基準とし、以下の項目を加え総合的に評価する。

- 授業における提出物・レポート・課題・ノートの内容
- 長期休業中におけるフィールドワークレポートの内容
- 個人やグループの課題研究の内容
- 様々なレポートや研究活動の発表の内容やそれに対する評価

(3) 年間学習計画 **A** **B** **SSC** **理数**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
保健		1	現代高等保健体育（大修館書店）	
学期	月	領域	内容	備考
第一学期	4月 上旬 中旬 下旬	生涯を通じる健康	思春期と健康	
			性意識と性行動の選択	
			結婚生活と健康	
	5月 上旬 中旬 下旬		妊娠・出産と健康	
			家族計画と人工妊娠中絶	
			加齢と健康	
	6月 上旬 中旬 下旬		高齢者のための社会的取り組み	
生涯にわたる健康づくり		期末考査		
第二学期	9月 上旬 中旬 下旬	社会生活と健康	保健制度とその活用	
			医療制度とその活用	
			医薬品と健康	
	10月 上旬 中旬 下旬		さまざまな保健活動や対策	
			大気汚染と健康	
	11月 上旬 中旬 下旬		水質汚濁・土壌汚染と健康	
			健康被害の防止と環境対策	
過去の公害から学ぶ環境問題				
12月 上旬 中旬	環境衛生活動のしくみと働き	期末考査		
	第三学期	1月 上旬 中旬 下旬	食品衛生活動のしくみと働き	
食品と環境の保健と私たち				
2月 上旬 中旬 下旬		働くことと健康		
		労働災害と健康		
3月 上旬 中旬	健康的な職業生活	学年末考査		

参考資料

高等学校学習指導要領 内容のまとめ「保健体育」

6 芸術

音楽科

1 目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 評価の観点

- 音楽への関心・意欲・態度
- 音楽表現の創意工夫
- 音楽表現の技能
- 鑑賞の能力

3 2年次の学習内容

(1) 【表現】

- ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって演奏すること
- イ 曲種に応じた音楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること
- ウ 様々な表現形態による特徴と表現上のかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること
- エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏すること

(2) 【鑑賞】

- ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞すること
- イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して鑑賞すること
- ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴に理解を深めて鑑賞すること
- エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めて鑑賞すること

4 学習の仕方

- 授業には、教科書・My Song・音楽通論・ノート（5線譜）・筆記用具・タブレットを持参してください。
- 実技を伸ばすためには授業に集中し、学習ポイントを理解し、習得しようとする意欲が大切です。
- 筆記テストはありません。各学期末に音楽ノートとプリントを提出してもらい評価に加えています。
- 実技テストは、ソロ・デュオ・アンサンブルと様々な形式で行います。
- 楽曲についてPC等を活用するなど、普段から音楽に対する興味関心を持つようにしてみましょう。

《例》

- 様々な言語による楽曲や文化について調べ練習してみる
- 合唱曲のパート別・伴奏の音源を聞いて練習してみる
- 楽器奏法について調べ、様々な作品や演奏を聴いてみる
- 劇音楽について調べ、演出やキャストを変えて鑑賞してみる
- 他教科の知識も活用し、世界の音楽に視野を広げてみる など

令和2年度 年間学習計画表 A B

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
音楽Ⅱ	2	高校生の音楽2	My Song・音楽通論
【到達目標】	① 心身の成長に応じた応用的な表現力をつけます ② 音楽を構成する要素や音楽の仕組みを理解し、表現や鑑賞に活かします ③ 音楽を通じて創造性や協同的に関わる力を伸ばします		
【学習上の留意点】	① 定期考査（筆記）は実施しませんが、授業内に実技テストを行います。 ② 授業に積極的に参加し、表現しようという主体的な姿勢が大切です。 ③ データやノート・プリント等の提出物も重視しています		
月	進度（単元）	自己チェック項目	
4～7月	斉唱	<input type="checkbox"/> 姿勢や声の豊かな響きを意識して発声しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 言語に合わせた発音や発声を意識しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 声部の重なりを意識して表現しているか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 声部のバランスに留意して表現しているか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 多様な楽曲形式に興味を持っているか	
9～12月	斉唱	<input type="checkbox"/> 楽曲形式を理解して聴取することができるか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 器楽アンサンブルに興味を持っているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 楽器によるアンサンブルができるか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 音の要素（音程）を理解しているか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 音の要素（音程）を感じて表現することができるか	
1～3月	斉唱	<input type="checkbox"/> 姿勢や声の豊かな響きを意識して発声しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 言語に合わせた発音や発声、響きを意識しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> ハーモニーを感じて表現しているか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 声部のずれや重なりを意識して表現しているか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 民族固有の音楽や芸能に興味を持ち鑑賞しているか	
1～3月	斉唱	<input type="checkbox"/> 様々なジャンルの音楽に興味を持ち鑑賞しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 鍵盤打楽器に興味を持ち表現しようとしているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 鍵盤打楽器で平易な曲を演奏することができるか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（音階）を理解しているか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（音階）を意識して表現しているか	
1～3月	斉唱	<input type="checkbox"/> 姿勢や声の豊かな響きを意識して発声しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 言語に合わせた発音や発声を意識しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> デュオに興味を持ち表現することができるか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 声によるアンサンブルに興味を持ち表現することができるか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 劇音楽に興味を持ち鑑賞しているか	
1～3月	斉唱	<input type="checkbox"/> 様々な声に興味を持ち鑑賞しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（和音）を理解しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（和音）を理解しているか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（和音）を理解しているか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（和音）を意識して表現しているか	

美術科

1 美術Ⅱ

社会を見渡せば美術に関連した仕事や商品などがたくさんあります。

では、なぜ学ぶのだろうか。美術を学ぶ意味は、作品を描き作ることを通して「人間を知ること」です。例えば、文学でも歴史学・経済学でも人間を研究する学問であり、また理数系も自然界の法則について研究する物理や化学や数学や薬学などありますが人間の体内での化学変化などを調べているわけです。分野や方法は違っても人間を知ることには変わりはないのです。美術を通して試行錯誤を繰り返し、自分と向き合ってみましょう。

美術Ⅱは、幅広い美的体験の上に立ち、創造的な美術の諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見つけ表現する能力や、美術作品を多様な視点から分析し理解したり、心豊かな生き方にかかわる美術の働きを理解したりするなどの鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしています。

2 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 評価の観点

- 美術への関心・意欲・態度
- 発想や構想の能力
- 創造的な技能
- 鑑賞の能力

4 2年次の学習内容

(1) 【彫刻・絵画】

- ア 自然、自己、社会などを深く見つけて主題を生成すること。
- イ 表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ること。
- ウ 主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現すること。

(2) 【デザイン】

- ア 自然、自己、社会などを深く見つけ、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考えて主題を生成すること。
- イ 目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて創造的で心豊かな表現の構想を練ること。
- ウ 主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現すること。

5 その他

- 夏季休業中の課題は、必要に応じて提示していきます。
- 美術系及び建築系への進学を考えている者は、実技試験や作品が必要になるので早めに実技対策に取り組んでください。

令和2年度 年間学習計画表 A B

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
美術Ⅱ		2	高校生の美術2（日本文教出版）	
【到達目標】		① 塑造制作を通して平面と立体の関連性や自分を見つめる美術の造形美について学びます。 ② 視覚伝達デザインを通して自己とのかかわりで対象をとらえ、心豊かな生き方を実現するためのデザインの能力や態度を学びます。 ③ 油絵の制作を通して対象を深く観察し、造形美の表現を学びます。		
【学習上の留意点】		① 授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ② 中間及び期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	≪作品制作≫ 塑造「友達をつくる」 ≪調べ学習≫ 立体作品に関するテーマ (彫塑など)		<input type="checkbox"/> 立体作品について鑑賞し、学ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 人の顔のプロポーションを理解できたか。 <input type="checkbox"/> 目口鼻などの部分の描き方を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 友達を正面、側面からデッサンする。 <input type="checkbox"/> 写真から顔をトレースし、プロポーションを再認識できたか。
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	≪作品制作≫ 塑造「友達をつくる」 ≪調べ学習≫ 立体作品に関するテーマ (彫塑など)		<input type="checkbox"/> 粘土や道具の扱いについて理解できたか。 <input type="checkbox"/> 制作（粗付けから仕上げ）手順を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 粘土の表現について理解できたか。（顔・髪など） <input type="checkbox"/> 友達の作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	≪作品制作≫ 油絵「花－構成画」 ≪調べ学習≫ 絵画に関するテーマ		<input type="checkbox"/> 花をモチーフに画面構成を考え、表現に生かされたか。 <input type="checkbox"/> 油絵の描写に工夫がみられるか。 <input type="checkbox"/> 作品の完成度を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 質感の表現や配色に工夫がみられるか。 <input type="checkbox"/> 1年次に学んだ油絵の基礎を生かし、取り組めたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	≪作品制作≫ デザイン「地域PRポスター」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> PR企画を考えることができたか。 <input type="checkbox"/> 地域PRのためのコピー（文案）を考えることができたか。 <input type="checkbox"/> イラストを考え工夫できたか。 <input type="checkbox"/> レタリングの基本を理解し、できたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	≪作品制作≫ デザイン「地域PRポスター」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> 構図を検討し、イラストが表現に生かされているか。 <input type="checkbox"/> コピーのレイアウトを理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 1年次に学んだデザインの基礎を生かし、取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。

書道科

1 書道Ⅱ

文字は記憶から記録をする為に生まれました。今の世の中では、文字は書く時代から打つ時代へと変化しつつあります。しかし文字を書くという作業は無くなりません。国民の多くは上手な文字を書きたいと思っています。しかし習字の学習はきちんとされていません。書道Ⅱでは、様々な筆使いを学び、書く事の大切さを理解する能力と観察力を身に付けてほしいと思っています。又、印の意味を理解する為に篆刻に挑戦します。楽しんで下さい。

2 目標

紙に書く文字、石に彫る文字、小筆を使う文字、色々な作業を通して、書に対する理解を深めて楽しんで欲しいと思います。

3 評価の観点

- ・書への関心、意欲、態度
- ・見る力、考える力と想像力
- ・表現への技術力
- ・ノートの作成

4 2年生の学習内容

ア、甲骨文字から楷書までの学習

甲骨、金文、小篆、隸書、木簡、草書、行書、楷書

イ、篆刻の学習

文字調べ、印草稿作り、布地、彫り、押印、印箋作り（完成）

ウ、仮名の学習

高野切第三種、第一種の表現と読み

エ、硬筆の学習

楷書、平仮名、片仮名

5 その他

- ・ノートを毎時業ごとにしっかりと取ること。（定期考査ごとにチェックします）
- ・篆刻の授業ではケガをしないように。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
書道Ⅱ		2	光村図書 書道Ⅱ	なし
【到達目標】		①甲骨文字から楷書までの漢字を時代にそって学びます。 ②篆刻（石に名前を刻す）を通して印の素晴らしさを学びます。 ③仮名の学習と硬筆を学びます。		
【学習上の留意点】		①毎授業ごとの提出物を重視します。 ②篆刻の手順を理解する。 ③毎授業ごとのノートをしっかり取っているか。（チェック有）		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	・漢字の歴史 甲骨文字、金文、小篆木簡を 臨書する		・歴史ごとに文字の発達、変化を理解できたか ・各課題でしっかりノートが取れているか
6月 ～ 7月	1学期 期末	隸書、草書、行書、楷書を 臨書する		・現在使われている漢字が完成するまでを理解できたか ・各課題の筆使いの違いを理解できたか
9月 ～ 10月	2学期 中間	・篆刻の学習（ビデオ有） 文字調べ 印稿作り 布字 彫り		・ビデオにより篆刻の歴史、作業を理解できたか ・完成までの手順、作業を理解できたか
11月 ～ 12月	2学期 期末	押印、印箋作り ・仮名の学習 高野切第三種、第一種		・目標通りの印が出来たか ・仮名の筆使いを理解しているか ・和歌を読めるか
1月 ～ 3月	3学期 学年末	・仮名の学習 短冊へ ・硬筆の学習 楷書、平仮名、片仮名		・短冊作品をきちんと完成させられたか ・硬筆は丁寧に読み易い文字を書くということを理解したか

7 英語科

大宮北高の第2学年の英語授業

現在、英語は国際語としての地位を非常に勢いで確立しつつあります。大宮北高等学校の英語の授業では、従来の訳読の「紹介型」から「技能習得型」の英語教育で、「実際に使える英語力」を3年間で鍛えていくことを目指します。そして、生徒一人ひとりの将来の自己実現の力になる「人間力」の育成します。皆さんが、英語という道具を駆使して、「どこだって生きていける」と未来を切り開いていくことを目指します。

授業では、生徒の「英語を話せるようになりたい」、教師の「生徒に英語をどんどん話せるようになってもらいたい」、それらの期待に応える授業を行なっていきます。

昨年度の振り返り 英語での表現力は、国内高校3年生の平均スコアを“はるかに”超えた

昨年度は、「話す力」の向上に主眼を置き、日々の英語学習活動が行われた。結果、皆さんはGTEC（12月実施）「話す・書く」において、現在の国内高校3年生の平均スコアをはるかに超えることができました。話す・書く力（OUTPUT・表現する力）は目覚ましい速度で向上しています。これからも引き続き向上させていきます。学年平均スコアで、B1.1を目指します。

4技能をバランスよく伸ばすため・高質のOUTPUTへ「発音・多読」

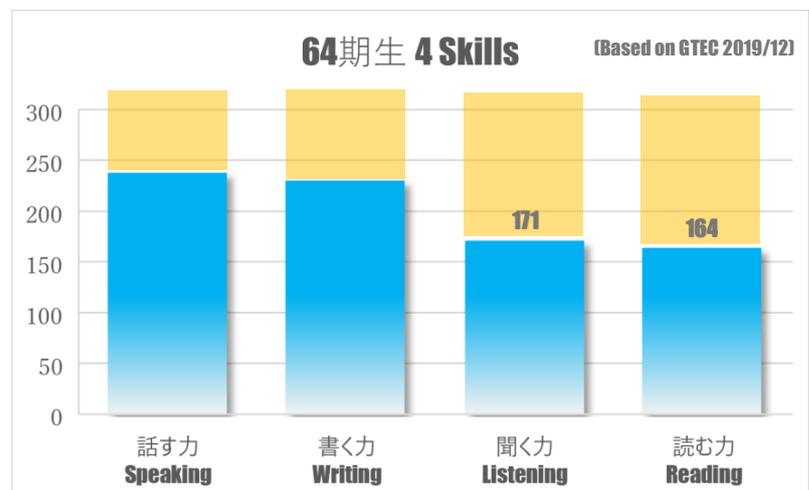
発話活動の質の向上、聞く力の向上、読む力の向上のために、第2学年から強化していくのは、聞く力・読む力です。そのKEYは、「発音意識づけ・多読」です。英語を出す際は、必ず「発音」に注意してもらいます。そうすることで、英語の音声を正しく理解でき、聞く力の向上につながります。多くの英文を読むことにより、まとまった英語を順序だて読めるようになり、読む力が向上します。さらにほかの技能も向上させます。そのために、図書館の英語本、「10,000語へ挑戦」を実施します。好きな本を好きな時に読み、語数を記録します。

TARGET 2年次重点項目

- 1: 発音の強化
- 2: 多読

TARGET 引き続き行う項目

- 1: 語彙文法の強化
- 2: さらなる言語活動
- 3: **Weekly test**



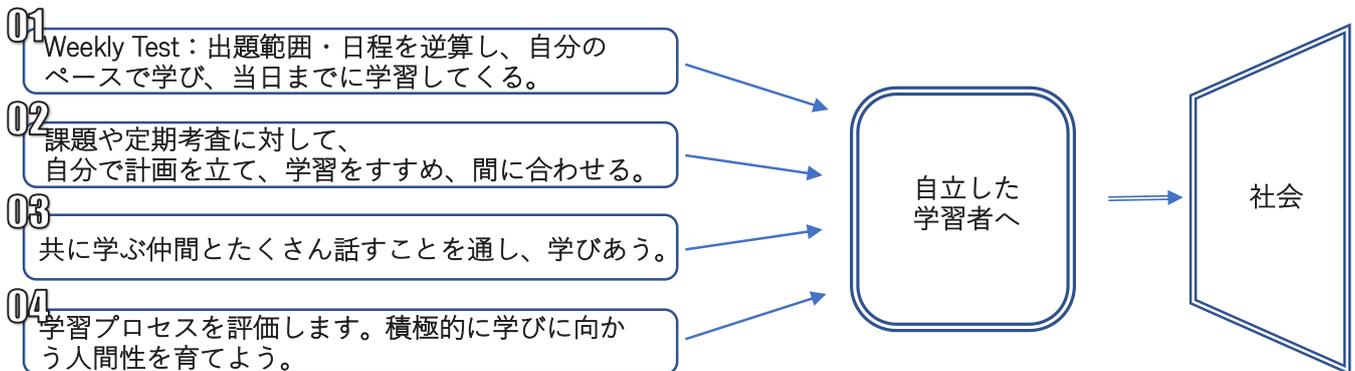
2年の言語活動 【英語ディベート】

今年は、自分の考えを伝える+「英語でのやり取り」に主眼を置きます。例えば、相手へ論理的に反論すること、考えを出し合うことです。その活動を通して、実生活で生きる英語を学習していきます。



自立した学習者へ

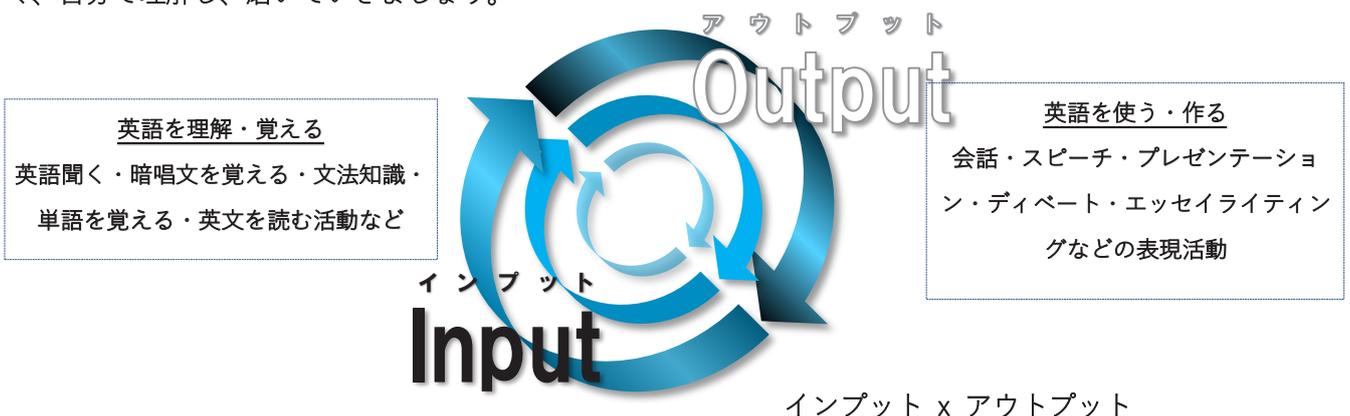
2学年英語科は、生徒の皆さんの自分で学び続ける力・他者と協働し問題を解決する力を育てていきます。



学習のすすめ方 「英語を使うために覚え、使いながら覚える」を繰り返す

授業は「英語を使う場」＝「話したり・書いたり表現する場所」です。しっかりと単語や暗唱文、文法ルールを覚え、単語・文法のウィークリーテストに備えて、自己学習に取り組みましょう。静かに座って授業を受けるのではなく、授業中は、積極的に英語を使いましょう

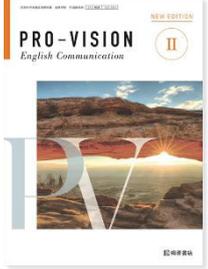
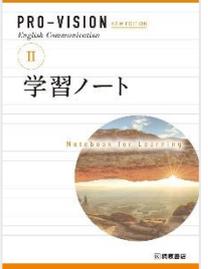
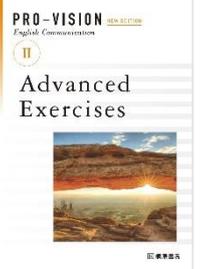
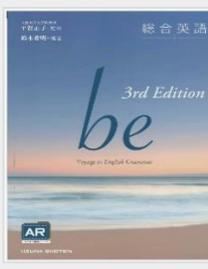
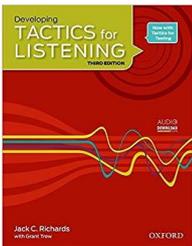
補足として、文法や語彙の知識は、自分で考え、体得していくものです。誰かに教え込まれるものではなく、自分で理解し、磨いていきましょう。



1. 目標

聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなどの総合的な言語活動を通して、5つの領域を総合的に扱い、総合的な英語運用能力を伸ばす。

2. 使用教材と用途

テキスト関連			Weekly Test : 週替わりの小テスト	
Text: Pro-vision	学習ノート	Advanced Exercises	総合英語 be	単語帳: フレ単4500
				
様々なジャンルの興味深い話が入っています。	予習用のノート 授業までに必ず終わらせる。	復習用ワークブック 定期的に提出有り。	文法はこの文法書で学ぶ。文法のWeekly Testは、ここから出題されます。	Weekly Test の単語テストは、これから出題されます。
TACTICS for LISTENING Developing			Work Sheet	
	① 年間24回取り組み、皆さんの英語Listening能力を繰り返し向上させていきます。 定期テストでは、リスニングが追加されます。		①教科書の内容理解をさらに深く発展させるため ②学んだ知識を活用し使うための物。単元終了後は必ず提出してもらいます。大事に保管。	

3. 指導計画

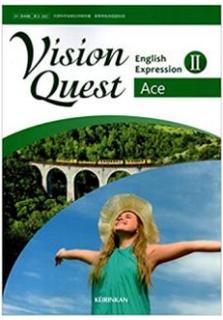
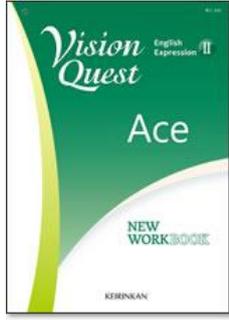
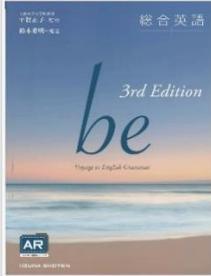
		Contents	言語活動 / OST (予定)	Weekly Test	
1 学 期	中 間	1. Lesson 1 The Freedom to Be Yourself 2. Lesson 2 Are You Really a Sloth?	Essay Writing Speech Conversation Retelling Debate Presentation [SKIT] [Newscaster] [Speech Contest] * スケジュールは別紙	フレーズで英単語 (浜島書店) * スケジュールは別紙	
	期 末	3. Lesson 3 Mount Fuji — The Eternal Mountain 4. Lesson 4 Handwriting in the Digital Age			Ost 1 OST 2 assessment 評価 OST 3 assessment 評価
2 学 期	中 間	5. Lesson 5 Designed to Change the World 6. Lesson 6 The First Olympics			OST 4 assessment OST 5 assessment 評価
	期 末	7. Lesson 7 The Dark, Mysterious Universe Deep under the Ocean 8. Lesson 8 The Story of the Teddy Bear			OST 6 assessment 評価
3 学 年 期	学 末	9. Lesson 9 Laughter is the Best Medicine 10. Lesson 10 The Underground	OST 7 assessment 評価 OST 8 assessment 評価		

* 文法ウィークリーテストの詳細日程は、別紙

1. 目標

1. Speaking, Writing のスキルの向上に主眼を置き、英語での発信力を強化する。
2. 単元ごとに様々な文法表現を“実際のコミュニケーション”において運用するために、繰り返し練習し、身に付ける。
3. スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して、Speaking, Writing のスキルを中心とした発信力を強化する。

2. 使用教材と用途

テキスト関連		Weekly Test：週替わりの小テスト		
Text: Vision Quest	Vision Quest Workbook	総合英語 be (文法書)	暗唱例文集・確認問題集	Vintage
				
テキストの予習は、授業までに終わらせる。点検あり。	文法事項の復習用のワークブック。提出有り。	文法の Weekly Test は、ここから出題されます。	文法 Weekly Test は、ここから出題されます。	文法 weekly test の範囲になります。後日配布します。
言語活動のためのワークシート		暗唱文などの音声データ		
	学習した文法材料を使うために、エッセイライティングやスピーチ、プレゼンテーションを行うためのものです。提出があります。		文字や意味だけで、英語を覚えず、必ず音声を聞き、ネイティブのように発音することを心がけていきましょう。	

3. 指導計画

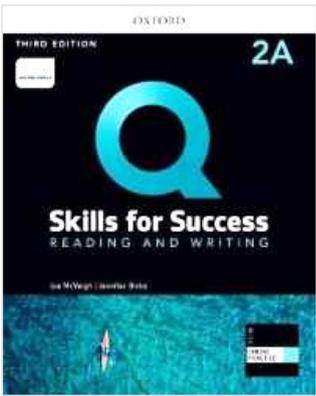
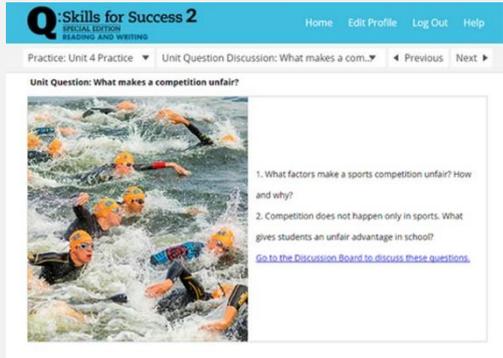
		Contents	言語活動	Weekly Test (参考書 be・暗唱例文)
1 学期	中間	1. L1 主語の決定／見えない主語の発見／主語の it 2. L2 主語になる名詞句／形式主語／無生物主語 3. GF1 名詞と冠詞 4. L3 自動詞と他動詞／群動詞 5. L4 SVO/SVOO 6. L5 SVC/SVOC	Essay Writing: introduction Essay Writing: Practice Speech Conversation Retelling Summarizing Debate Presentation * スケジュールは別紙	総合英語 be Vintage * スケジュールは別紙
	期末	7. L6 使役動詞／知覚動詞 8. L7 直接話法・間接話法 9. GF2 主語と動詞の呼応・時制の一致 10. L8 「～する」／「～している」現在・進行形・現在完了 11. L9 「～した」／「～していた」過去・大過去・過去完了 12. L10 能動態・受動態 13. L11 「もし(今)～ならば」／「もし(あの時)～だったらなら」		
2 学期	中間	14. L12 義務・必要を表す助動詞／推量を表す助動詞 15. GF3 英語の情報構造 16. L13 数量を表す語句／名詞を前から修飾する語句 17. L14 名詞を後ろから修飾する 18. L15 関係代名詞／関係副詞 19. L16 副詞・副詞句／不定詞や分詞を使った副詞句 20. L17 副詞節 21. GF4 前置詞		
	期末	22. L18 原級／比較級 23. L19 最上級／最上級を意味する表現 24. L20 no/部分否定／準否定 25. GF5 丁寧表現 26. Pt2 L1 文と文をつなぐ 27. Pt2 L2 パラグラフの構成／列挙・順序 28. Pt2 L3 例示・追加 29. Pt2 L4 比較・対照 30. Pt2 L5 原因・理由・結果		
3 学期	学 年 末	31. Pt2 L6 リーディングの要約 32. Pt2 L7 リスニングの要約 33. Pt3 L1 プレゼンテーションの準備／発表と質疑応答／評価 34. Pt3 L2 ディスカッションの進め方／評価 35. Pt3 L3 ディベートの進め方／判定		

1. 目標

- 主に Reading, Writing, + Critical Thinking で英語運用能力の向上をめざす。
- 様々なテーマのトピックを読み、聞き、見て、Q: 問題について考えることを通して、英語の読み取る・聞き取る力を向上させ、自分独自の考えを持ち、表現する姿勢を育てる。

* A2 (CEFR) レベル

2. 使用教材と用途

<p>Text: Q Skills for Success 2A READING AND WRITING</p>	<p>iQ ONLINE</p>
	
<ol style="list-style-type: none"> 4 技能・文法・語彙が全て組み込まれています。 質問を中心とした内容で、学習者の“クリティカルシンキング”を促す。 リスニングとリーディングの活動によって、強固な基礎固めができ、より高いレベルの学習スキルを身につけるための手助けをします。 * 提出物あります 	<p>iQ Online が Student Book に組み込まれているので、教室の中でも外でも学習できます。スマートフォン・タブレット・PC で可能です。 * 提出物あります</p>

3. 指導計画

		Contents	Target Grammar	Activities	Assignments
1 学期	中間 期末	<p>Unit 1: Marketing - Why does something become popular?</p> <p>Unit 2: Psychology - How do colors affect our behavior?</p> <p>Unit 3: Social Psychology - What does it mean to be polite?</p>	<p>Present continuous</p> <p>Future with will</p> <p>Subject-verb agreement</p>	<p>Reading</p> <p>Reading Skill</p> <p>Critical Thinking</p> <p>Strategy</p> <p>Work with the Video</p> <p>Vocabulary Skill</p> <p>Writing Skill</p> <p>Grammar</p> <p>Paragraph writing</p>	<p>単元ごとの アサイメント</p>
2 学期	中間 期末	<p>Unit 4: Technology - How can technology improve performance?</p> <p>Unit 5: Business - What makes a family business</p> <p>Unit 6: Brain Science - How can you learn faster and better?</p>	<p>Modals</p> <p>Comparative and superlative</p> <p>adjective</p> <p>Infinitives of purpose</p>		
3 学期	学 年 末	<p>Unit 7: Environmental Science - Do cities need nature?</p> <p>Unit 8: Public Health - How can we prevent diseases?</p>	<p>Past and past continuous</p> <p>Adverbs of manner</p> <p>and degree</p>		

* アサイメント (課題) について後日連絡します

8 数理探究（2年生理数科・SSC）

（1）学習について

物理・化学・生物・地学・数学から各自選び、課題研究を行います。課題研究は、自分の興味あるテーマを設定し、それを研究するものです。そのために、必要な仮説、実験計画を立て、検証し、得られたデータを整理して、そこから結論を導きだします。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上もめざします。

ここからも分かるように、課題研究は、主体的にやっていくべきものとなります。

（2）令和2年度 年間学習計画表 SSC 理数

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数理探究Ⅱ		2	各教科の教科書	
【到達目標】		① 各自が設定した研究テーマについて、研究活動を行い、その成果を報告書にまとめる。 ② 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。 ③ 必要に応じて、大学や研究機関の協力を仰ぎ、先進的な内容に触れる。		
【学習上の留意点】		① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。		
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期	課題研究ガイダンス ミニ課題研究 研究テーマの設定	<input type="checkbox"/> 課題研究の手法を理解したか。 <input type="checkbox"/> ミニ課題研究を通じて、実験、データ分析、発表までの流れを理解することができたか。 <input type="checkbox"/> 主体的に研究テーマを設定できたか。	
6月 ～ 7月	1学期	検証実験開始	<input type="checkbox"/> 実現可能な実験計画を策定することができたか。 <input type="checkbox"/> 仮説と検証実験の内容に整合性があるか。 <input type="checkbox"/> 実験ノートを作成しているか。 <input type="checkbox"/> 実験結果を踏まえ、新たな方向性を模索することができたか。	
9月 ～ 10月	2学期	検証実験の見直し	<input type="checkbox"/> 実験結果に基づいた、客観的な結果になっているか。 <input type="checkbox"/> 一般化した式は、論理的に正しいか。	
11月 ～ 12月	2学期	最終報告書の作成 プレゼンテーション資料の作成 研究中間発表（ポスター発表）	<input type="checkbox"/> 得られた結果を考察することができたか。 <input type="checkbox"/> 研究目的・方法・結果など分かりやすくまとめたポスターを作成することができたか。 <input type="checkbox"/> ポスター発表では他者に分かりやすく発表することができたか。	
1月 ～ 3月	3学期	研究発表（口頭発表） 最終資料の作成	<input type="checkbox"/> 発表スライドを作成し、他者に分かりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 指摘された事項を踏まえ、最終資料を作成することができたか。	

※オンライン・スピーキング・トレーニング（OST）年間4回実施（さらに英語の授業において6回実施）